

令和6年度

地方独立行政法人福岡市立病院機構に
係る業務実績に関する評価結果報告

福岡市

報告第53号

地方独立行政法人福岡市立病院機構に係る業務実績に関する評価結果報告

地方独立行政法人法第28条第5項の規定により、地方独立行政法人福岡市立病院機構に係る令和6年度の業務の実績に関する評価結果について報告する。

令和7年9月3日

福岡市長 高 島 宗 一 郎

目 次

は じ め に	1
第 1 項 全体評価	2
第 2 項 項目別評価	4
(1) 大項目評価	
第 1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成する ためとるべき措置	4
第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	7
第 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	8
第 4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	9
(2) 小項目評価	
1 福岡市立病院機構の概要	13
2 全体的な状況	15
3 項目別の状況	22
第 1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成する ためとるべき措置	
1 医療サービス	22
2 患者サービス	46
3 医療の質の向上	60
第 2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	76
2 事務部門の機能強化	80
3 働きがいのある職場環境づくり	84
4 法令遵守と公平性・透明性の確保	90
第 3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 持続可能な経営基盤の確立	94
2 収支改善	100
第 4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	
1 福岡市立こども病院における医療機能の充実	116
2 福岡市民病院における経営改善の推進	120
第 5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画	124
第 6 短期借入金の限度額	127
第 7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	127
第 8 剰余金の使途	127
第 9 地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営 に関する事項	128
参 考 資 料	129

は じ め に

福岡市は、地方独立行政法人法第28条第1項の規定に基づき、地方独立行政法人福岡市立病院機構の令和6年度における業務実績の全体について総合的に評価を実施した。

評価に際しては、地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会において、評価に関する意見を聴取し、平成30年6月22日に決定した「地方独立行政法人福岡市立病院機構業務実績評価の方針」及び「地方独立行政法人福岡市立病院機構年度業務実績評価実施要領」に基づき評価を行った。

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会 委員名簿

	氏 名	職 名
委 員 長	北 園 孝 成	九州中央病院 院長
副委員長	福 田 治 久	九州大学大学院医学研究院 准教授
委 員	案 浦 美 雪	福岡市医師会 副会長
	濱 田 正 美	福岡県看護協会 会長
	行 正 晴 實	公認会計士

第1項 全体評価

評価結果及び判断理由

〈評価結果〉

第4期中期目標期間の最終年度である令和6年度の業務実績に関する各大項目の評価については、小項目評価の結果を踏まえ、第1及び第4の大項目については「評価A」、第2については「評価C」、第3については「評価B」とする。

この大項目評価の結果等を踏まえ、令和6年度の業務の実績は、「改善すべき事項があるが、中期計画の実現に向けて概ね計画どおり進んでいる。」と評価する。

〈判断理由〉

福岡市立病院機構は、理事長を中心に、両病院と運営本部が一体となり、経営管理の徹底を図っている。

福岡市立こども病院においては、引き続き、中核的な小児総合医療施設としてこれまで培ってきた小児医療（高度・地域・救急）及び周産期医療の更なる充実に取り組んだ。

福岡市民病院においては、新型コロナウイルス感染症等への対応を継続しながら、高度専門医療について安定的な提供に取り組むとともに、救急医療については「断らない救急」の徹底に取り組んだ。

業務運営の改善及び効率化については、働きがいのある職場環境づくりの取組を進めたが、法令遵守の観点において改善すべき事項が見られた。

経営収支面では、令和6年度診療報酬改定による施設基準の厳格化や物価高騰の影響などにより両病院がともに当期純損失を計上することとなったが、積極的な病床管理による患者受入れの強化や診療材料等に係る価格交渉の徹底など、経営改善に向けた取組を着実に進めた。

全体評価にあたって考慮した内容

〈特筆すべき取組〉

《福岡市立こども病院》

- ・ 緊急母体搬送症例の積極的な受入れや、食物アレルギー、喘息及びアトピー性皮膚炎の成人移行支援パスの作成など診療機能の強化・充実に取り組んだ。また、こども支援室を設置して、患者の包括的な成長・発達支援及び入院生活支援等の充実を図った。
- ・ 臨床研究や治験業務に積極的に取り組むなど、小児・周産期医療の発展に寄与する取組を行った。

《福岡市民病院》

- ・ 引き続き感染症への対応を継続しながら、リウマチ・膠原病内科を設置し、遺伝性血管性浮腫（HAE）のオンライン診療を開始したほか、循環器内科において、AI を活用した非侵襲的解析手法の導入など、患者への負担軽減となる新しい技術を積極的に導入するなど医療の充実を図った。
- ・ 救急医療については、「断らない救急」の徹底に取り組み、また、脳卒中、循環器疾患については、医師、救急救命士が同乗する形での迎え搬送の実施を始めた。

《両病院》

- ・ 両病院ともに、引き続き地域の医療機関を中心に積極的な病病・病診連携を推進するとともに、災害発生に備えた平時における取組を進めた。
- ・ 経営アドバイザーを活用した法人経営改革会議を設置し、経営改善に向け積極的に取り組んだ。

評価にあたっての意見、指摘等

- ・ 両病院ともに、専門的・高度な医療の確保に努めており、病床利用率も改善している。
- ・ 両病院ともに、経営が厳しい状況の中にあっても、人材育成に力を入れて取り組んでいる。
- ・ 医師を十分に確保できないことにより経営に影響が生じている。
- ・ 福岡市歯科医師会と連携しての、入院患者の口腔アセスメントの実施はすばらしい取組である。これによる医療の質の向上に期待したい。
- ・ 福岡市立こども病院の医業収支比率は目標値を下回ったが、病院の頑張りとは無関係なPICU(小児集中治療室)の入院管理料の取り下げといった外部的要因による部分もあると思われるので、加算が取れていれば医業収支比率がどの程度上がるのかなどを踏まえて、評価をお願いしたい。
- ・ 今回のような採点のアプローチは、診療報酬改定直後である今期限りの取扱いとしてはどうか。
- ・ 全国的にどこの病院も増収減益と言われている中、福岡市民病院においては医業損益を改善させるなど、熱心に取り組まれている。
- ・ 臨床研究等では科学研究費助成事業を取得していることはすばらしい。
- ・ 法令遵守に関する点については、再発防止策の徹底が必要である。

第2項 項目別評価

(1) 大項目評価

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

① 評価結果 A (計画以上に進んでいる)

S	A	B	C	D
特筆すべき進捗状況にある (特に認める)	計画以上に進んでいる(120%以上)	おおむね計画どおり進んでいる (100%以上 120%未満)	やや遅れている (100%未満)	重大な改善すべき事項がある (特に認める)
【 120 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計)／b 標準点×100) ※小数点以下切捨て				
両病院ともにコロナ等の感染症への対応は継続しながら、高度専門医療や高度救急医療等に積極的に取り組み、診療機能の強化・充実を図るとともに、患者サービスや医療の質の向上に取り組むなど、計画以上に進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項 目			評価	ウエイト	ウエイト 換算
1 医療サービス	(1)良質な医療の実践	こども病院	4	2	8
		市民病院	4	2	8
	(2)地域医療への貢献と医療連携 の推進	こども病院	4	2	8
		市民病院	4	2	8
	(3)災害・感染症等への適切な 対応	こども病院	4	2	8
		市民病院	4	2	8
2 患者サービス	(1)患者サービスの向上	こども病院	3	2	6
		市民病院	3	2	6
	(2)情報発信	こども病院	3	1	3
		市民病院	3	1	3
3 医療の質の 向上	(1)病院スタッフの計画的な確保と 教育・研修	こども病院	3	2	6
		市民病院	3	2	6
	(2)信頼される医療の実践	こども病院	4	2	8
		市民病院	4	2	8
合計				26	a 94
標準点(※全ての小項目評価が3)				b 78	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

「1-(1) 良質な医療の実践 ア 福岡市立こども病院」

○ 1人1日当たり入院単価や1日当たり入院患者数等では目標を下回ったが、手術件数や救急搬送件数等では目標を上回っており、新規入院患者数では開院以来最多の数を受け入れたことに加え、こども支援室を新たに設置するなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(1) 良質な医療の実践 イ 福岡市民病院」

○ 目標値はほぼ全ての項目で達成しており、特に新規入院患者数及び手術件数については、組織全体の取組により、目標値を大きく上回った。また、新たにリウマチ・膠原病内科を設置したことや、迎え搬送の実施により循環器疾患について医療の質を高める取組を開始するなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ア 福岡市立こども病院」

○ 目標値は多くの項目で達成しており、特に新規紹介患者数や逆紹介率については目標を大きく上回って実施するなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 イ 福岡市民病院」

○ 新規紹介患者数やオープンカンファレンスの開催件数、参加者数では目標を下回っているが、紹介率では目標を達成しており、オープンカンファレンスについては内容の集約化等を行うことで概ね同水準の内容が維持されている。また、迎え搬送を新たに開始し、福岡市歯科医師会との連携事業を実施するなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(3) 災害時等の迅速かつ的確な対応 ア 福岡市立こども病院」

○ 各種研修への派遣を通じて職員の対応能力向上に取り組むとともに、高潮災害に備え、BCP(事業継続計画)の更新に加えて非常用発電機用の燃料ポンプ室の防水工事を実施するなど、非常時の備えに積極的に取り組んだことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「1-(3) 災害時等の迅速かつ的確な対応 イ 福岡市民病院」

○ 救急・災害医療の研修会への講師派遣や、消防訓練についてより実践的な内容で実施したことに加え、関係機関との合同訓練を行い感染症対応力の強化を図るなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「3-(2) 信頼される医療の実践 ア 福岡市立こども病院」

○ 薬剤管理指導件数は目標を下回っているが、薬剤師の一般病棟への配置及び薬物療法への関与を引き続き実施し、医療安全の確保を図った。また、栄養食事指導・相談についても積極的に取り組み、開院以来最多の件数を実施するなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

「3-(2) 信頼される医療の実践 イ 福岡市民病院」

○ 薬剤管理指導件数は目標をわずかに下回ったが、栄養食事指導・相談件数、がん患者指導件数は前年比で大きく増加し目標値を達成している。また、クリニカルパス専任看護師の配置を行い、患者中心の医療の実践を図るなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

- 福岡市民病院における福岡市歯科医師会と連携しての入院患者の口腔アセスメントの実施はすばらしい取組である。
- 両病院ともに、経営が厳しい状況の中にあっても、人材育成に力を入れて取り組んでいる。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

① 評価結果 C（やや遅れている）

S	A	B	C	D
特筆すべき 進捗状況にある (特に認める)	計画以上に進んで いる(120%以上)	おおむね計画どお り進んでいる (100%以上 120%未満)	やや遅れている (100%未満)	重大な改善 すべき事項がある (特に認める)
【 91 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計)／b 標準点×100) ※小数点以下切捨て				
地方独立行政法人の特長を生かした自律的な病院経営が行われており、働きがいのある職場環境づくりにも積極的に取り組んだ一方で、法令遵守の観点において改善すべき事項が見られたことから、やや遅れていると評価する。				

② 小項目評価の集計結果

項 目	評価	ウエイト	ウエイト 換算
1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	3	1	3
2 事務部門の機能強化	3	1	3
3 働きがいのある職場環境づくり	3	1	3
4 法令遵守と公平性・透明性の確保	2	1	2
合計		4	a 11
標準点(※全ての小項目評価が3)		b 12	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

特になし

④ 評価にあたっての意見、指摘等

・ 法令遵守に関する点については、再発防止策の徹底が必要である。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

① 評価結果 B（おおむね計画どおり進んでいる）

S	A	B	C	D
特筆すべき 進捗状況にある (特に認める)	計画以上に進んで いる(120%以上)	おおむね計画どお り進んでいる (100%以上 120%未満)	やや遅れている (100%未満)	重大な改善 すべき事項がある (特に認める)
【 102 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計)／b 標準点×100) ※小数点以下切捨て				
両病院とも増収対策や費用削減に取り組み、経常収支について両病院ともに目標を達成しており、おおむね計画どおり進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項 目			評価	ウエイト	ウエイト 換算
1 持続可能な 経営基盤の 確立	(1)経営基盤の安定化と運営費 負担金の適正化	こども病院	3	2	6
		市民病院	3	2	6
	(2)投資財源の確保		2	1	2
2 収支改善	(1)収益確保	こども病院	3	2	6
		市民病院	4	2	8
	(2)費用削減	こども病院	3	2	6
		市民病院	3	2	6
合計				13	a 40
標準点(※全ての小項目評価が3)				b 39	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

「2-(1) 収益確保 イ 福岡市民病院」

○ 指標についてはほとんどの項目で目標値を達成しており、効率的な病棟の運用等により新規入院患者数及び手術件数は目標値・前年数値ともに上回って実施したこと、また、外来収益も前年比で増加させるなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

- ・ 福岡市立こども病院の医業収支比率は目標値を下回ったが、病院の頑張りとは無関係なPICU(小児集中治療室)の入院管理料の取り下げといった外部的要因による部分もあると思われるので、その点を踏まえた評価をお願いしたい。
- ・ 今回のような採点のアプローチは、診療報酬改定直後である今期限りの取扱いとしてはどうか。
- ・ 全国的にどこの病院も増収減益と言われている中、福岡市民病院においては医業損益を改善させるなど、熱心に取り組まれている。

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

① 評価結果 A（計画以上に進んでいる）

S	A	B	C	D
特筆すべき 進捗状況にある (特に認める)	計画以上に進んで いる(120%以上)	おおむね計画どお り進んでいる (100%以上 120%未満)	やや遅れている (100%未満)	重大な改善 すべき事項がある (特に認める)
【 133 %】 (a 評価点(※ウエイト換算後の合計)／b 標準点×100) ※小数点以下切捨て				
福岡市立こども病院においては、医療機能の充実を図るとともに、臨床研究や治験業務などで順調な成果を挙げていること、また、福岡市民病院においては、高度医療の充実を図るとともに、組織一丸となって経営改善に向けた取組を進め、医業損益を前年比4億円以上改善させる成果を上げるなど、計画以上に進んでいると評価できる。				

② 小項目評価の集計結果

項 目	評価	ウエイト	ウエイト 換算
1 福岡市立こども病院における医療機能の充実	4	2	8
2 福岡市民病院における経営改善の推進	4	2	8
合 計		4	a 16
標準点(※全ての小項目評価が3)		b 12	

③ 特筆すべき小項目評価等の判断理由

「1 福岡市立こども病院における医療機能の充実」
○ 川崎病や先天性心疾患に係る手術症例を始めとする高度小児専門医療に加え、小児救急医療、周産期医療等に着実に取り組んでいる。いずれも小児総合医療施設としての医療機能の充実を資する取組であり、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。
「2 福岡市民病院における経営改善の推進」
○ 組織全体で病床管理や地域医療機関との連携強化に取り組み、診療材料に関し法人内で共通品を選定して費用削減を図るなど、組織一丸となって取組を進め、医業損益を前年比4億円以上改善させるなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

④ 評価にあたっての意見、指摘等

- 臨床研究等では科学研究費助成事業を取得していることはすばらしい。

- (2) 小項目評価
別紙のとおり

(別紙)

地方独立行政法人福岡市立病院機構 令和6年度の業務実績に関する評価結果

小項目評価

1 福岡市立病院機構の概要

(1) 現況（令和6年4月1日現在）

① 法人名

地方独立行政法人福岡市立病院機構

② 本部の所在地

福岡市東区香椎照葉五丁目1番1号

③ 役員の状況

役員	氏名	備考
理事長	堀内 孝彦	福岡市民病院 院長
副理事長	楠原 浩一	福岡市立こども病院 院長
理事	石橋 達朗	九州大学 総長
	瓜生 道明	九州電力株式会社 代表取締役会長
	神坂 登世子	福岡国際医療福祉大学 生涯教育センター 副センター長
	平田 誠一	運営本部 運営本部長
監事	近藤 祥子	公認会計士
	柳澤 賢二	弁護士

④ 設置・運営する病院

病院名	所在地	病床数
福岡市立こども病院	福岡市東区香椎照葉五丁目1番1号	一般病床 239床
福岡市民病院	福岡市博多区吉塚本町13番1号	一般病床 200床 感染症病床 4床

⑤ 職員数

（令和6年5月1日現在）

区 分	職員数
合 計	1,018人
福岡市立こども病院	617人
福岡市民病院	387人
運営本部	13人
部長（防災・救急担当）	1人

（２）基本的な目標等

地方独立行政法人福岡市立病院機構は、地方独立行政法人制度の特長である自律性、自主性を最大限に発揮し、医療制度改革や診療報酬改定など医療を取り巻く環境の変化に迅速かつ柔軟に対応しつつ、効率的な病院経営を行いながら、地域の医療機関等との機能分担や連携の下、引き続き高度専門医療、救急医療等を提供し、地域における医療水準の向上、市民の健康の維持及び増進に寄与すべく、以下の基本理念及び基本方針の下、福岡市長から指示された中期目標を達成する。

〈基本理念〉

いのちを喜び、心でふれあい、すべての人を慈しむ病院を目指します。

〈基本方針〉

質の高い医療の提供

地域・社会に貢献する病院

健全な病院経営

2 全体的な状況

(1) 取組の総括と課題

法人設立15年目となる令和6年度については、福岡市から示された第4期中期目標期間の最終年度であったが、市立病院としての役割を果たすため、引き続き新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）の対応に取り組むとともに、患者サービスの向上、病院機能の強化、経営の効率化等に取り組んだ。

令和6年度の年度計画については、引き続き、福岡市立こども病院においては、中核的な小児総合医療施設としてこれまで培ってきた小児医療（高度・地域・救急）及び周産期医療の更なる充実に取り組んだ。また、福岡市民病院においては、コロナ等への対応を継続しながら、高度専門医療については安定的な提供に取り組むとともに、救急医療については「断らない救急」の徹底に取り組み、紹介患者及び救急患者の受入れを強化した結果、病床利用率や新規入院患者数が前年度を大きく上回った。

経営収支面では、収益確保として、適宜、病院幹部によるモニタリングや協議を行う等、効率的に病棟を運用しながら、施設基準管理ソフトを活用し、増収に繋がる施設基準の取得及び維持管理に努め、令和6年度の診療報酬改定についての的確に対応するように努めるとともに、レセプト請求の精度向上等に取り組んだ。また、費用削減として両病院の診療材料の同種同効品の統一化や価格交渉等に取り組んだほか、省エネルギー化を推進し光熱費の縮減に努めたが、福岡市立こども病院においては、診療報酬の改定によるP I C U等の入院管理料の取り下げ等の厳しい状況により5億8千万円余の当期純損失が発生し、福岡市民病院においても、医業収益は前年度を大きく上回ったものの、物価高騰の影響による経費の増などにより、4億4千万円余の当期純損失が発生した。

今後の課題として、両病院ともに、経営の効率化等への積極的な取組を始め、ハラスメント防止などによる働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、福岡市立こども病院においては、求められる高度小児専門医療、小児救急医療及び周産期医療を提供する病院としての役割を果たしていくため、医療環境の変化を見据えながら、医療機能等について検討を進めていく必要がある。

また、福岡市民病院においては、福岡県地域医療構想及び福岡県保健医療計画において地域で必要とされる高度専門医療及び高度救急医療体制を提供するために必要な取組を継続して行うとともに、災害時や感染症等発生時などの緊急時には、事業継続計画に基づき、福岡市及び関係機関との連携の下、市立病院として求められる役割を果たす必要がある。

さらに、現在、福岡市病院事業運営審議会で審議されている将来的な福岡市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえながら、現在の医療資源を最大限有効活用して経営の効率化に積極的に取り組む必要がある。

(2) 大項目ごとの取組状況及び特記事項

第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 医療サービス

福岡市の医療施策として求められる高度専門医療、高度救急医療等を引き続き提供するために、診療機能の更なる充実を図った。

福岡市立こども病院においては、「第一種協定指定医療機関」として、小児のコロナ感染患者に対する小児救急医療を提供した。また、緊急母体搬送症例の積極的な受入れ、移行期患者や家族への支援、食物アレルギー、喘息及びアトピー性皮膚炎の成人移行支援パスの作成着手、医療的ケア児のレスパイト入院の受入れ、看護師、MSW（医療ソーシャルワーカー）等の多職種協働による患者情報の聴取や入院支援、抗インフルエンザ薬のフォーミュラリーの作成、こども支援室の設置など診療機能の強化・充実に取り組んだ。

福岡市民病院においては、引き続き感染症への対応を継続しながら、リウマチ・膠原病内科を設置し、遺伝性血管性浮腫（HAE）のオンライン診療を開始したほか、循環器内科において、非侵襲的手法によりAIによる解析を行い、患者への負担軽減となる新しい技術の導入を積極的に行った。

また、脳卒中、循環器疾患については、医師、救急救命士が同乗する形での迎え搬送を実施するとともに、救急医療については、「断らない救急」の徹底に取り組んだ。

さらに、両病院ともに引き続き、オープンカンファレンスを実施するなど、地域の医療機関を中心に積極的な病病・病診連携を推進するとともに、災害発生に備えた訓練の実施やBCP（事業継続計画）の見直し等を行った。

2 患者サービス

患者・家族等のサービス向上に取り組むとともに、病院の役割や医療内容等を広く情報発信し、市民に開かれた病院づくりに努めた。

福岡市立こども病院においては、患者家族向けの病棟への外部の弁当配送サービス及び患者本人向けの退院時アンケートの開始、スマートフォンアプリを利用した患者呼出システムの本格運用、地元プロスポーツ球団等の病棟慰問や入院中の子どもと家族のための家族写真撮影会を開催するとともに、窓ガラスへの遮光カーテンや遮光フィルムの取付け、共用シャワー室の手摺の増設など、患者サービスの向上を図った。

福岡市民病院においては、クレジットカード決済端末の増設、患者からの指摘・意見に対する回答の院内各所への掲示など、患者サービスの向上を図った。また、総合案内業務を外出困難な重度障がい者等が分身ロボットを活用して交替で行う実証事業に協力した。

さらに、両病院ともに、ホームページやSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を活用した患者や医療関係者等への情報発信を行うとともに、出前講座や生涯学習講座を行うなど、医療機関、市民・患者に開かれた病院づくりに努めた。

3 医療の質の向上

実習生の受入れや説明会等を実施して、意欲ある人材の確保に努めるとともに、専門職としての知識・技術の向上を図るため、認定看護師等資格取得支援制度の活用を促進した。

福岡市立こども病院においては、職員向けクリニカルパス勉強会を開催するなど普及・啓発活動を行いケアの標準化、均質化を図るとともに、院内ケアプロセス形式監査を実施するなど病院機能評価で明らかとなった課題に対する業務改善に継続的に取り組んだ。

また、引き続き薬剤師を一般病棟へ配置し、薬物療法への関与による医療安全の確保や医師及び看護師の負担軽減を図った。

福岡市民病院においては、クリニカルパス専任看護師を配置することでパスを積極的に活用し、より分かりやすいインフォームド・コンセントの徹底や、ホームページへの公開による治療内容の可視化等に取り組むとともに、夜勤専従等の派遣看護師を活用して看護師を確保するなど、看護職員の負担軽減を図った。

両病院ともに、市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、感染症専門医や感染管理認定看護師等を中心に院内の感染防止対策の徹底を図るとともに、他病院とのカンファレンスや相互訪問ラウンドに取り組むなど、医療安全対策の強化を図った。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実

法人運営を的確に行うため、令和6年度は計10回の理事会を開催し、理事会の方針決定に沿って自律的な運営を行った。

また、病院長のリーダーシップの下、執行部会議や経営五役会議等を開催し、医療情勢の変化や患者のニーズに対応できるよう迅速な意思決定、情報共有を図りながら、各病院の実態に即した機動性の高い病院経営に取り組むとともに、運営本部と両病院合同による経営会議の開催や経営アドバイザーを活用した法人経営改革会議の設置など法人の全体的な視点から、市立病院として適切な法人運営に取り組んだ。

また、理事長直下の組織「企画情報推進室」において、情報システムの管理やセキュリティの強化、DX（Digital Transformation）の推進等について、機構全体で一体的にマネジメントするとともに、福岡市立こども病院においては、スマートフォンの導入による業務効率化の検討、福岡市民病院においては、要約機能があるAIボイスレコーダーの導入など、ICT（情報通信技術）の活用による業務の効率化を推進した。

2 事務部門の機能強化

資質向上を目的とした研修を実施するとともに、外部主催の中堅事務職員を対象とした講座に参加させるなど、事務職員の能力向上に努めた。

3 働きがいのある職場環境づくり

令和7年4月施行に向けた、子の看護休暇等制度の取得事由の拡充検討、介護離職防止のための相談体制の整備のほか、メンタルヘルスに関する取組をまとめた「第2次心の健康づくり計画」を策定し、安心して働き続けることができる制度の充実に取り組んだ。

両病院において、医師や看護師のタスクシフティングに積極的に取り組み、労働時間の適正化に努めた。

4 法令遵守と公平性・透明性の確保

管理監督者に対するコンプライアンス研修やハラスメント研修を実施するとともに、全職員を対象とした個人情報保護法に関する研修や情報セキュリティ研修などにより職員の教育を徹底し、法人職員として有すべき行動規範と倫理観の確立に努めた。

しかしながら、令和6年度にパワー・ハラスメントによる懲戒処分事案が2件発生し、市民の皆様の信頼を損なうこととなったことは大変遺憾である。このため、5年度から実施している全職員を対象としたハラスメント研修を引き続き実施するとともに、6年度から新たに課長級以上を対象にマネジメントの強化等を目的とした研修を実施し再発防止に取り組んだ。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 持続可能な経営基盤の確立

法人経営改革会議や両病院の執行部会議等を定期的に開催し、経営状況を迅速に把握し、経営分析等を通じて、取り組むべき課題を明確にしたうえで、収益確保及び費用削減に取り組むとともに、効率的・効果的な病院経営に取り組んだ。

なお、収支改善に取り組んだものの、当期純損失が発生し新たな投資財源を確保することはできなかったが、繰越積立金を活用することにより、計画的な施設整備、高額医療機器の更新や必要な医療機器の購入等、効果的な投資を行った。

2 収支改善

両病院ともに、施設基準管理ソフトを活用し、適切な施設基準の取得及び維持管理に努めるとともに、業務効率化や、価格交渉や両病院の共通品や同種同効品の価格統一等による診療材料費の更なる縮減、省エネルギー化の推進などを行った。

福岡市立こども病院においては、病院幹部による患者数・手術件数等のモニタリング及び協議を行い、効率的な病棟運用の実施や院内の保険診療検討ワーキングチームを中心に査定傾向の分析に基づいた診療報酬請求プロセスの改善活動を病院全体で実施したが、診療報酬の改定によるP I C U等の入院管理料の取り下げ等により医業収益は89億7千万円余で、前年度より4億円余の減となった。

福岡市民病院においては、「病床管理会議」を毎朝開催し、課題や情報の共有を行った結果、病床利用率の向上と診療報酬改定による新しい基準での重症度、医療・看護必要度を維持したほか、診療科毎のカンファレンスに医事課並びに医療事務委託会社の職員が参加し、情報提供・情報共有に努めるなどレセプト請求の精度向上に取り組む、医業収益は64億4千万円余で、前年度より5億3千万円余の増となった。

【医業収益】

(単位：千円)

区 分	令和５年度 実績値(①)	令和６年度 目標値(②)	令和６年度 実績値(③)	対前年実績値 (③－①)	対目標値 (③－②)
福岡市立こども病院	9,379,003	9,459,551	8,971,832	▲407,171	▲487,719
福岡市民病院	5,907,481	6,356,603	6,442,088	534,607	85,485
法人全体	15,286,484	15,816,154	15,413,920	127,436	▲402,234

【営業費用】

(単位：千円)

区 分	令和５年度 実績値(①)	令和６年度 目標値(②)	令和６年度 実績値(③)	対前年実績値 (③－①)	対目標値 (③－②)
福岡市立こども病院	10,888,417	11,752,374	11,262,113	373,696	▲490,261
福岡市民病院	7,462,714	7,867,260	7,591,325	128,611	▲275,935
法人全体	18,351,131	19,619,634	18,853,438	502,307	▲766,196

【医業収支比率（医業収益/営業費用）】

区 分	令和５年度 実績値(①)	令和６年度 目標値(②)	令和６年度 実績値(③)	対前年実績値 (③－①)	対目標値 (③－②)
福岡市立こども病院	86.1%	80.2%	79.7%	▲6.4ポイント	▲0.5ポイント
福岡市民病院	79.2%	80.3%	84.9%	5.7ポイント	4.6ポイント
法人全体	83.3%	80.2%	81.8%	▲1.5ポイント	1.6ポイント

【経常収支比率】

区 分	令和５年度 実績値(①)	令和６年度 目標値(②)	令和６年度 実績値(③)	対前年実績値 (③－①)	対目標値 (③－②)
福岡市立こども病院	100.3%	94.8%	94.8%	▲5.5ポイント	0.0ポイント
福岡市民病院	95.7%	89.3%	94.1%	▲1.6ポイント	4.8ポイント
法人全体	98.5%	92.6%	94.5%	▲4.0ポイント	1.9ポイント

(注) 計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

(注) 【医業収益】、【営業費用】の令和６年度目標値は、令和６年度予算補正後の数値を記載している。

(注) 【医業収支比率】、【経常収支比率】の令和６年度目標値は、令和６年度年度計画の数値を記載している。

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置

1 福岡市立こども病院における医療機能の充実

厚生労働省DPC（診断群分類）公開データにおいて、成人を含む全国のDPC病院の中で症例数が、川崎病（209例）について9年連続で全国1位となるとともに、複雑な先天性心疾患に係る難易度の高い手術症例（53例）については全国2位（前年度までは8年連続で全国1位）となるなど、順調に成果を挙げた。

また、科学研究費助成事業（文部科学省）で研究代表として採択された課題等に積極的に取り組み、19件（うち研究代表3件）の研究に参加した。

さらに、国際医療支援センターを中心に、職員の外国語能力・コミュニケーション能力の向上を目指して、医療英語・中国語・フランス語研修を開催したほか、臓器提供の申出に円滑に対応できるよう、外部講師の講演会を開催するとともに、脳死判定及び臓器提供のシミュレーションを実施した。また、県内大型商業施設に支援自販機（寄付型自動販売機）を設置した。

2 福岡市民病院における経営改善の推進

福岡県と改正感染症法に基づく医療措置協定を締結し、感染症発生時は病床確保、発熱外来の設置、人材の派遣を行うこととした。令和6年度はインフルエンザ・コロナについて重症化リスクのある患者の積極的な受入れをした。

コロナの影響による病床確保がない年度となり、紹介患者及び救急患者の受入れを強化した結果、病床利用率は令和5年度実績値を大幅に上回った。

一方で、物価高騰の影響による経費の増により収支は厳しいものとなったが、医療収支比率・経常収支比率は年度計画の目標を上回った。

今後は、AIを用いたプログラム医療機器などの導入により高度でより安全な医療の提供を行いながら、医療DXにより経営の効率化を推進していく。

【主な目標値の達成状況】

区 分		福岡市立こども病院			福岡市民病院		
		6年度 目標値	6年度 実績値	達成率	6年度 目標値	6年度 実績値	達成率
患者 動向	1人1日当たり入院単価（円）	108,000	101,249	93.7	73,400	75,397	102.7
	1人1日当たり外来単価（円）	12,200	13,585	111.4	27,900	28,544	102.3
	1日当たり入院患者数（人） （病床利用率（％））	205.5 (86.0)	202.3 (84.6)	98.4 (98.4)	174.0 (85.2)	176.5 (86.5)	101.4 (101.5)
	新規入院患者数（人）	7,400	8,000	108.1	4,770	5,013	105.1
	平均在院日数（日）※1	9.9	8.2	120.7	11.5	11.9	96.6
	1日当たり外来患者数（人）	383.0	419.9	109.6	211.0	218.7	103.6
医業 活動	手術件数（件）	2,600	2,720	104.6	3,800	3,967	104.4
	救急搬送件数（件）	1,400	1,597	114.1	3,400	3,677	108.1
	紹介率（％）	90.0	101.1	112.3	110.0	110.6	100.5
	逆紹介率（％）	66.7	89.7	134.5	180.0	185.8	103.2
	薬剤管理指導件数（件）	6,500	5,368	82.6	7,150	7,032	98.3
	栄養食事指導・相談件数（件）	1,700	1,872	110.1	900	1,074	119.3
患者 満足	退院時アンケートの平均評価点数 （こども病院）（100点満点）	89.0	90.2	101.3	—	—	—
	患者満足度調査における平均評価 点数（福岡市民病院）（100点満点）	—	—	—	90.0	91.6	101.8
経営 収支	給与費対医業収益比率（％）※1	64.4	66.0	97.6	61.9	58.3	106.2
	材料費対医業収益比率（％）※1	19.6	19.9	98.5	31.7	31.6	100.3
	薬品費対医業収益比率（％）※1	6.7	8.0	83.8	10.8	11.9	90.8
	診療材料費対医業収益比率（％）※1	12.6	11.6	108.6	20.6	19.6	105.1
	委託費対医業収益比率（％）※1	12.1	11.5	105.2	8.7	8.0	108.8
	ジェネリック医薬品導入率（％）※2	85.0	78.9	92.8	88.0	88.7	100.8
	経常収支比率（％）	94.8	94.8	100.0	89.3	94.1	105.4
	医業収支比率（％）	80.2	79.7	99.4	80.3	84.9	105.7

※1 実績値が低い方が目標を達成している項目（達成率は目標値/実績値で算出）

※2 ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。

3 項目別の状況

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践
中期計画	年度計画
(1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 ア 福岡市立こども病院 高度小児専門医療、小児救急医療及び周産期医療の更なる充実に取り組むとともに、移行期医療や医療的ケア児への対応等、福岡市立こども病院に求められる役割を果たせるよう、診療機能の充実や見直しを図る。	(1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 ア 福岡市立こども病院 ○ 「コロナ患者の入院受入れ実施医療機関」として、引き続き、福岡県における新型コロナウイルス感染症に係る小児救急医療の提供を行う。 ○ 福岡県の地域周産期母子医療センターとして、地域の分娩施設等からの母体搬送・新生児搬送を受け入れ、高度な周産期医療を提供するとともに、「福岡県母体搬送コーディネーター事業」の中核病院として、地域における周産期救急搬送体制の一翼を継続的に担う。 ○ たけのこ外来（循環器科）において、患者の成長に合わせた移行期医療を適切に提供する。 ○ 福岡県等が実施する「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」に引き続き参加し、地域の小児在宅医療の推進に努める。 ○ 患者及び家族が安心して入院生活を送れるよう、多職種協働による入退院支援部門の更なる拡充を図る。 ○ フォーマulary※¹の運用を実施するとともに、小児疾患に適応を有するバイオシミラー医薬品※²を積極的に採用し、エビデンスと経済性等に基づく質の高い小児薬物治療を推進する。 ※¹ 各々の医療機関等において、医学・薬学的妥当性や経済性等を踏まえて作成された医薬品の使用方針。 ※² 既に新薬として承認された先行バイオ医薬品と同等／同質の品質、安全性及び有効性を有する医薬品として、異なる製造販売業者により開発された医薬品。 ○ 患者の包括的な成長・発達支援及び入院生活支援等を目的として、こども支援室を設置する。

中期目標(内容)	市立病院機構は、地域における医療水準の向上を図り、市民の健康の維持及び増進に寄与するため、福岡市における医療政策として求められる高度専門医療、救急医療等を提供すること。 また、その役割を安定的かつ継続的に果たすため、患者のニーズや医療環境の変化に即して、診療機能の充実や見直しを図ること。 ア 福岡市立こども病院 これまで培ってきた高度小児専門医療、小児救急医療及び周産期医療の更なる充実を図るとともに、中核的な小児総合医療施設として求められる役割を果たすこと。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ○ 「第一種協定指定医療機関」として、小児のコロナ感染患者に対する小児救急医療を提供した。 ○ 「福岡県母体搬送コーディネーター事業」の中核病院として、切迫早産等の新生児病床を必要とする緊急母体搬送症例を積極的に受け入れる（６年度90件、５年度101件）とともに、ドクターカーによる新生児の迎え搬送を積極的に行う（６年度126件、５年度96件）など、地域における周産期救急搬送体制の一翼を担った。 ○ 移行期支援外来（たけのこ外来）において、「たけのこ外来予約枠」を活用し、移行期患者教育プログラムを着実に実施（６年度136人、５年度48人）するとともに、移行期支援のプレ期となる12歳以上の患者及び患者家族に対して、移行期支援外来の目的やセルフケアの確立に向けての教育を行った（６年度13人、５年度６人）。 また、こどもアレルギーセンターにおいて、P A E（小児アレルギーエデュケーター）を中心に、食物アレルギー、喘息及びアトピー性皮膚炎の成人移行支援パスの作成に着手した。 ○ 福岡県等が実施する「小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業」に引き続き参加し、医療的ケア児のレスパイト入院を受け入れた（６年度６人、延べ27日、５年度９人、延べ38日）。 ○ 引き続き、看護師、MSW（医療ソーシャルワーカー）等の多職種協働による「入退院支援推進チーム」により、８診療科（眼科・耳鼻いんこう科・小児外科・泌尿器科・循環器科・皮膚科・脳神経外科、形成外科）の入院予定患者（６年度延べ3,439人、５年度延べ2,582人）に対して、患者情報の聴取や入院に関する情報提供等の入院支援を実施した。	2	3	4	○ 小児のコロナ患者に対する医療を始め、小児救急医療、周産期医療、移行期医療及び医療的ケア児への対応に着実に取り組んでいる。 ○ １人１日当たり入院単価や１日当たり入院患者数等では目標を下回ったが、手術件数や救急搬送件数等では目標を上回っており、新規入院患者数では開院以来最多の数を受け入れたことに加え、こども支援室を新たに設置するなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価４」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】				【目標値】		
指標	福岡市立こども病院			指標	福岡市立こども病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和4年度 実績値	令和6年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）	108,393	112,546	110,000	1人1日当たり 入院単価（円）	111,703	108,000
1日当たり入院 患者数（人） （病床利用率（%））※	215.5 (90.2)	190.0 (79.5)	205.5 (86.0)	1日当たり入院 患者数（人） （病床利用率（%）） ※	200.7 (84.0)	205.5 (86.0)
新規入院患者数 （人）	7,428	6,180	6,883	新規入院患者数（人）	7,486	7,400
手術件数（件）	2,929	2,730	2,800	手術件数（件）	2,599	2,600
救急搬送件数 （件）	1,380	963	1,060	救急搬送件数（件）	1,923	1,400
PICU（小児集中 治療室）利用率 （%）	98.1	98.1	98.1	PICU（小児集中 治療室）利用率（%）	97.1	95.8
NICU（新生児 集中治療室）利用 率（%）	95.7	94.3	95.5	NICU（新生児集 中治療室）利用率 （%）	97.2	97.0
※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出				※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出		

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価																											
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																										
○ フォーマュラリーについては、昨今の医薬品供給不足問題が継続しており、既存のフォーマュラリーの十分な活用ができなかったが、新たに抗インフルエンザ薬のフォーマュラリーを作成し、エビデンスと経済性に基づく小児薬物治療の更なる適正使用を図った。 また、バイオシミラー医薬品については、適応が先発薬と異なることが要因となり、積極的な導入はできなかった。 ○ 患者の包括的な成長・発達支援及び入院生活支援等を目的として、4月にこども支援室を設置した。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和5年度 実績値</th><th>令和6年度 実績値</th></tr><tr><td>1人1日当たり 入院単価（円）</td><td>111,393</td><td>101,249</td></tr><tr><td>1日当たり入院 患者数（人） （病床利用率（％）） ※</td><td>199.9 (83.7)</td><td>202.3 (84.6)</td></tr><tr><td>新規入院患者数(人)</td><td>7,760</td><td>8,000</td></tr><tr><td>手術件数（件）</td><td>2,732</td><td>2,720</td></tr><tr><td>救急搬送件数（件）</td><td>1,723</td><td>1,597</td></tr><tr><td>P I C U（小児集中 治療室）利用率（％）</td><td>91.5</td><td>92.2</td></tr><tr><td>N I C U（新生児集 中治療室）利用率 （％）</td><td>97.7</td><td>97.9</td></tr></table> ※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出 【自己評価の判断理由】 ○ 目標値については、1人1日当たり入院単価、1日当たり入院患者数、病床利用率及びP I C U利用率は目標値を下回ったが、それ以外の指標で目標値を上回るとともに、小児のコロナ感染患者に対する小児救急医療の提供やこども支援室を設置するなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。	指標	福岡市立こども病院		令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	1人1日当たり 入院単価（円）	111,393	101,249	1日当たり入院 患者数（人） （病床利用率（％）） ※	199.9 (83.7)	202.3 (84.6)	新規入院患者数(人)	7,760	8,000	手術件数（件）	2,732	2,720	救急搬送件数（件）	1,723	1,597	P I C U（小児集中 治療室）利用率（％）	91.5	92.2	N I C U（新生児集 中治療室）利用率 （％）	97.7	97.9				
指標		福岡市立こども病院																												
	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値																												
1人1日当たり 入院単価（円）	111,393	101,249																												
1日当たり入院 患者数（人） （病床利用率（％）） ※	199.9 (83.7)	202.3 (84.6)																												
新規入院患者数(人)	7,760	8,000																												
手術件数（件）	2,732	2,720																												
救急搬送件数（件）	1,723	1,597																												
P I C U（小児集中 治療室）利用率（％）	91.5	92.2																												
N I C U（新生児集 中治療室）利用率 （％）	97.7	97.9																												

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (1) 良質な医療の実践
----------	--

中期計画	年度計画
(1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 イ 福岡市民病院 ① 福岡県保健医療計画及び地域医療構想に基づき、公立病院に求められる高度専門医療の更なる充実を図る。 ② 入院を必要とする重症度の高い救急患者の受入れを円滑に行うため、救急医療の更なる充実を図る。	(1) 良質な医療の実践 福岡市立こども病院及び福岡市民病院が、それぞれに求められる役割を着実に果たすため、次のとおり診療機能の強化・充実に取り組む。 イ 福岡市民病院 新型コロナウイルス感染症対応については、国や県及び福岡市における施策の動向や感染状況を踏まえながら、引き続き福岡市における中核的役割を担うとともに、公立病院に求められる高度専門医療・救急医療の安定的な提供に取り組む。 ① 福岡県保健医療計画及び地域医療構想に基づき、がん、心疾患、脳卒中に係る難易度の高い鏡視下手術やカテーテル治療等、高度専門医療の更なる充実を図る。 リウマチ・膠原病内科を設置し、難治性免疫疾患への対応を開始する。 ② 入院を必要とする重症度の高い救急患者の受入れを円滑に行うため、救急受入れに係る体制や受入病床の運用を見直すなど、救急医療の更なる充実を図る。

中期目標(内容)	市立病院機構は、地域における医療水準の向上を図り、市民の健康の維持及び増進に寄与するため、福岡市における医療政策として求められる高度専門医療、救急医療等を提供すること。 また、その役割を安定的かつ継続的に果たすため、患者のニーズや医療環境の変化に即して、診療機能の充実や見直しを図ること。 イ 福岡市民病院 高度専門医療を担う地域の中核病院としての機能を維持するとともに、高度救急医療の更なる充実を図ること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ○ コロナ対応については令和5年度で病床確保等の特例措置が終わり、令和6年度は通常通りの病棟運用に戻った。感染症についてはコロナ、インフルエンザ等への対応を継続しながら高度専門医療・救急医療の安定的な提供に取り組んだ。医師の働き方改革の影響により、他施設で受入れが困難となった軽症の救急患者の受入れが増加したことで救急搬送患者の入院率は目標を下回ったがその他の指標については目標を大きく上回った。 ① リウマチ・膠原病内科を設置し、難治性免疫疾患である遺伝性血管性浮腫（HAE）の専門外来を開始した。また遺伝性血管性浮腫（HAE）について広く全国の患者に対応できるようオンライン診療を開始した。 循環器内科においては、非侵襲的に冠動脈C T画像からA Iによる解析を行い、狭窄を調べるFFRCT（※1）、通常はワイヤーや薬剤を使用する必要があるFFR（冠血流予備量比（Fractional Flow Reserve））値の算出を冠動脈造影画像から非侵襲的に行うFFRアンギオ（※2）など患者への負担軽減となる新しい技術の導入を積極的に行った。 消化管外科、肝臓外科の医師の配置人員の逼迫は続いたが、腹腔鏡下手術等の高度な手術に取り組み、手術件数は目標を上回った（腹腔鏡下手術：6年度283件、5年度286件）。 脳卒中、循環器疾患については、医師、救急救命士同乗での迎え搬送を実施し医療の質向上に貢献した。 （※1）FFRCT C T画像を解析することで、冠動脈の狭窄と血流を同時に評価できる検査法 （※2）FFRアンギオ 冠動脈造影検査（CAG）と合わせて行われる冠血流予備量比（FFR）の測定	2	3	4	○ コロナ等の感染症への対応は継続しながら、高度専門医療等について着実に取り組んでいる。 ○ 目標値はほぼ全ての項目で達成しており、特に新規入院患者数及び手術件数については、組織全体の取組により、目標値を大きく上回った。また、新たにリウマチ・膠原病内科を設置したことや、迎え搬送の実施により循環器疾患について医療の質を高める取組を開始するなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】				【目標値】		
指標	福岡市民病院			指標	福岡市民病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和4年度 実績値	令和6年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）	64,081	69,327	66,300	1人1日当たり 入院単価（円）	79,493	73,400
1日当たり入院 患者数（人） （病床利用率 （％））※	183.9 (90.2)	167.5 (82.1)	190.0 (93.1)	1日当たり入院 患者数（人） （病床利用率（％）） ※	144.8 (71.0)	174.0 (85.2)
新規入院患者数 （人）	4,525	4,053	4,769	新規入院患者数 （人）	4,044	4,770
手術件数（件）	3,719	3,437	3,815	手術件数（件）	3,580	3,800
救急搬送件数 （件）	2,820	2,404	3,023	救急搬送件数（件）	3,037	3,400
救急搬送患者の 入院率（％）	44.0	43.6	43.6	救急搬送患者の 入院率（％）	43.6	43.6
※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出				※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出		

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価																								
	ウ エ ィ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど																							
② 救急患者の受入体制について、救急委員会で効率的な受入体制や、医師、看護師の負担軽減等を行い、「断らない救急」の徹底に取り組んだ結果、救急搬送件数は目標値を大きく上回った。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和5年度 実績値</th><th>令和6年度 実績値</th></tr><tr><td>1人1日当たり 入院単価（円）</td><td>78,480</td><td>75,397</td></tr><tr><td>1日当たり入院 患者数（人） （病床利用率（％）） ※</td><td>155.6 (76.3)</td><td>176.5 (86.5)</td></tr><tr><td>新規入院患者数 （人）</td><td>4,533</td><td>5,013</td></tr><tr><td>手術件数（件）</td><td>3,873</td><td>3,967</td></tr><tr><td>救急搬送件数（件）</td><td>3,774</td><td>3,677</td></tr><tr><td>救急搬送患者の 入院率（％）</td><td>44.1</td><td>42.2</td></tr></table> ※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出 【自己評価の判断理由】 ○ コロナ病床確保等特例措置終了後も引き続き重症化リスクのある患者の受入を積極的に行い、感染症対応を継続しながら高度専門医療・救急医療の安定的な提供に取り組んだ。目標値については、救急搬送患者の入院率以外は達成し、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。	指標	福岡市民病院		令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	1人1日当たり 入院単価（円）	78,480	75,397	1日当たり入院 患者数（人） （病床利用率（％）） ※	155.6 (76.3)	176.5 (86.5)	新規入院患者数 （人）	4,533	5,013	手術件数（件）	3,873	3,967	救急搬送件数（件）	3,774	3,677	救急搬送患者の 入院率（％）	44.1	42.2				
指標		福岡市民病院																									
	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値																									
1人1日当たり 入院単価（円）	78,480	75,397																									
1日当たり入院 患者数（人） （病床利用率（％）） ※	155.6 (76.3)	176.5 (86.5)																									
新規入院患者数 （人）	4,533	5,013																									
手術件数（件）	3,873	3,967																									
救急搬送件数（件）	3,774	3,677																									
救急搬送患者の 入院率（％）	44.1	42.2																									

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス （2）地域医療への貢献と医療連携の推進
-----------------	---

中期計画	年度計画
(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ① 地域医療体制の中核を担う地域医療支援病院としての役割を踏まえ、地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進する。 また、地域の医療従事者への教育研修等を通じた地域医療への貢献に取り組む。 ② 福岡市立こども病院については、福岡県小児等在宅医療推進事業の拠点病院として、行政・医療・福祉・教育等の関係機関と連携を深め、小児在宅医療を担う在宅医や訪問看護ステーション等が拡充されるよう支援を行う等、引き続き地域における小児等医療提供ネットワーク構築に積極的に参加する。 ③ 福岡市民病院については、地域包括ケアシステムにおける中心的な役割を求められていることを踏まえ、回復期・慢性期病院や地域の在宅医療・介護を担う医療機関等との積極的な連携・支援に取り組むとともに、緊急時の円滑な入院受入れを行う。	(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ア 福岡市立こども病院 ① 地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図り、病病・病診連携を推進するとともに、「こども病院カンファレンス」等のオープンカンファレンスを開催するなど、地域の医療従事者への教育研修等を通じた地域医療への貢献に取り組む。 ② 福岡県小児等在宅医療推進事業の拠点病院として、地域におけるネットワーク構築や院内における退院支援、多職種を対象とした研修会等を行い、地域の小児在宅医療の推進に努める。 地域医療連携室ニュースレターを年4回発行し、病院の診療体制・診療内容の紹介、地域医療連携に関する情報、カンファレンス・研修会の案内等、登録医療機関への情報発信を継続的に行う。

中期目標(内容)	地域医療に貢献するため、地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進するとともに、地域包括ケアシステムの推進に取り組む上で求められる役割を果たすよう病院運営に取り組むこと。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ① 病病・病診連携や在宅医療・小児慢性特定疾患における多職種連携を推進するとともに、「こども病院カンファレンス」等のオープンカンファレンスを開催するなど、地域の医療従事者への教育研修等を通じた地域医療への貢献に取り組んだ。 ② 在宅医療を担う医療機関等の拡充を図るための人材育成を目的とした小児等地域療育支援病院研修会（テーマ：「在宅人工呼吸器管理、在宅医との連携について」「当院の入退院支援調整について」「社会保障制度について」の講義と当NICU・GCUにおける家族指導・医療的ケアの見学）及び医療型・福祉型の短期入所施設や特別支援学校の職員を対象とした研修会（テーマ：「てんかんのレスキュー薬について」）を各1回開催するとともに、在宅移行支援の一環として、退院前訪問2回及び退院後訪問を2回実施し、患者宅の環境調整及び療養上必要な指導を行うなど、「福岡県小児等在宅医療推進事業」の拠点病院としての役割遂行に努めた。 前方連携の強化を目的として、登録医宛にニュースレターを送付（4回）し、こどもアレルギーセンターに関する情報提供や当院の取組、研修会等の案内を行った。	2	3	4	○ 病病・病診連携や在宅医療・小児慢性特定疾患における多職種連携の推進など、地域医療への貢献に着実に取り組んでいる。 ○ 目標値は多くの項目で達成しており、特に新規紹介患者数や逆紹介率については目標を大きく上回って実施するなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画					年度計画				
【目標値】					【目標値】				
指標		福岡市立こども病院			指標		福岡市立こども病院		
		令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値			令和4年度 実績値	令和6年度 目標値	
新規紹介患者数 (人)		8,605	6,350	7,570	新規紹介患者数 (人)		8,156	7,570	
紹介率 (%)		94.8	89.1	90.0	紹介率 (%)		93.4	90.0	
逆紹介率 (%)		68.7	61.3	66.7	逆紹介率 (%)		81.7	66.7	
オープン カンファレ ンス	回数 (回)	31	18	24	オープン カンファレ ンス	回数 (回)	38	30	
	参加者数 ※1 (人)	805	600	800		参加者数 ※1 (人)	1,484	800	
登録医療機関数 (施設)		284	287	285	登録医療機関数(施 設)		289	285	
退院支援計画件数 ※2 (件)		187	187	210	退院支援計画件数 ※2 (件)		212	210	
※1 院外参加者数のみ ※2 退院支援計画書作成件数					※1 院外参加者数のみ ※2 退院支援計画書作成件数				

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)				自己評価		市長の評価	
				ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】							
指標		福岡市立こども病院					
		令和5年度 実績値	令和6年度 実績値				
新規紹介患者数 (人)		8,645	9,083				
紹介率 (%)		97.2	101.1				
逆紹介率 (%)		80.7	89.7				
オープン カンファレ ンス	回数 (回)	40	35				
	参加者数 ※1 (人)	1,075	682				
登録医療機関数(施設)		289	285				
退院支援計画件数 ※2 (件)		217	197				
※1 院外参加者数のみ							
※2 退院支援計画書作成件数							
【自己評価の判断理由】							
○ オープンカンファレンス参加者数及び退院支援計画件数以外の指標で目標値以上となるとともに、オープンカンファレンス等を通じた地域の医療従事者等への教育研修を実施するなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。							

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (2) 地域医療への貢献と医療連携の推進
中期計画	年度計画
(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 ① 地域医療体制の中核を担う地域医療支援病院としての役割を踏まえ、地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進する。 また、地域の医療従事者への教育研修等を通じた地域医療への貢献に取り組む。 ② 福岡市立こども病院については、福岡県小児等在宅医療推進事業の拠点病院として、行政・医療・福祉・教育等の関係機関と連携を深め、小児在宅医療を担う在宅医や訪問看護ステーション等が拡充されるよう支援を行う等、引き続き地域における小児等医療提供ネットワーク構築に積極的に参加する。 ③ 福岡市民病院については、地域包括ケアシステムにおける中心的な役割を求められていることを踏まえ、回復期・慢性期病院や地域の在宅医療・介護を担う医療機関等との積極的な連携・支援に取り組むとともに、緊急時の円滑な入院受入れを行う。	(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進 イ 福岡市民病院 ① 地域医療支援病院として、地域の医療機関からの紹介患者及び救急患者の円滑な受入れ、I C T (情報通信技術) を活用した積極的な情報発信や、新規開業を含めたクリニック等への定期的な訪問活動等、病病・病診連携を積極的に推進する。 また、地域の医療従事者への教育研修等を積極的に行い、地域医療への貢献に取り組む。 ③ 地域包括ケアシステムにおいて中心的な役割を果たすため、回復期・慢性期病院や地域の在宅医療・介護を担う医療機関・施設等との積極的な連携・支援に取り組むとともに、緊急時の円滑な入院受入れを行う。

中期目標(内容)	地域医療に貢献するため、地域の医療機関との連携・協力体制の更なる充実を図り、病病・病診連携を積極的に推進するとともに、地域包括ケアシステムの推進に取り組む上で求められる役割を果たすよう病院運営に取り組むこと。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ① 東部オープンカンファレンスを令和6年度4回開催し、外部から延べ167人の参加があった。 また、令和6年度は連携先医療機関への積極的な訪問を行い、延べ183医療機関の訪問を実施し、病病・病診連携のための情報共有を行った。 5期目となる看護師の特定行為研修は、外部からの受講生として地域の医療機関から看護師を2人受け入れ、院内の受講生と合わせ3人で開講し、全員が無事に修了した。 ③ 地域包括ケアシステムにおいては、入院前から外来・病棟・退院支援部門との多職種連携を図り、早期介入による在宅療養支援の充実に取り組むとともに、在宅医療・介護スタッフとの情報共有や在宅スタッフとの退院前カンファレンスを積極的に行うことで、在宅療養支援における質の向上を図った（退院前カンファレンス件数：6年度73件、5年度67件）。 救急救命士による連携医療機関からの緊急転院搬送を開始し、53件実施した。また脳卒中、循環器疾患が疑われる患者については、医師が搬送車に同乗して紹介元医療機関へ迎え搬送をすることで、より安心で安全な医療連携に貢献した。 ● 福岡市歯科医師会と連携し、歯科医師会から派遣された歯科衛生士と当院の摂食嚥下認定看護師が協働で、入院患者の口腔アセスメントのラウンドを実施し、全身と口腔の維持・改善、重症化予防を図った（ラウンド実施件数155件（132名））。	2	3	4	○ 病病・病診連携の充実や地域包括ケアシステムに係る取組に、着実に対応している。 ○ 新規紹介患者数やオープンカンファレンスの開催件数、参加者数では目標を下回っているが、紹介率では目標を達成しており、オープンカンファレンスについては内容の集約化等を行うことで概ね同水準の内容が維持されている。また、迎え搬送を新たに開始し、福岡市歯科医師会との連携事業を実施するなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画					年度計画				
【目標値】					【目標値】				
指標		福岡市民病院			指標		福岡市民病院		
		令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値			令和4年度 実績値	令和6年度 目標値	
新規紹介患者数 (人)		5,147	4,373	5,035	新規紹介患者数 (人)		4,530	5,000	
紹介率 (%)		88.7	88.0	88.0	紹介率 (%)		101.4	110.0	
逆紹介率 (%)		152.3	152.2	152.2	逆紹介率 (%)		208.2	180.0	
オーフ ンカン ファレン ス	回 数 (回)	108	40	100	オーフ ンカン ファレン ス	回 数 (回)	41	50	
	参加者数 ※1 (人)	880	100	1,000		参加者数 ※1 (人)	390	400	
登録医療機関数 (施設)		273	273	275	登録医療機関数 (施設)		314	290	
退院調整件数 ※2 (件)		1,109	1,046	1,181	退院調整件数 ※2 (件)		1,192	1,350	
※1 院外参加者数のみ					※1 院外参加者数のみ				
※2 入退院支援加算1・介護支援連携指導料の合計 件数					※2 入退院支援加算1・介護支援連携指導料の 合計件数				

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)				自己評価		市長の評価	
				ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】							
指標		福岡市民病院					
		令和5年度 実績値	令和6年度 実績値				
新規紹介患者数 (人)		4,613	4,693				
紹介率 (%)		114.4	110.6				
逆紹介率 (%)		191.2	185.8				
オープンカン ファレン ス	回数 (回)	53	28				
	参加者数 ※1 (人)	432	373				
登録医療機関数 (施設)		328	329				
退院調整件数 ※ 2 (件)		1,381	1,546				
※1 院外参加者数のみ							
※2 入退院支援加算1・介護支援連携指導料の合計件数							
【自己評価の判断理由】							
○ 目標値については、新規紹介患者数、オープンカンファレンス開催件数、参加者人数は目標値を下回ったが、連携先医療機関への積極的な訪問や、退院前カンファレンスの充実、医師が同乗した迎え搬送の開始など、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。							

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (3) 災害・感染症等への適切な対応
----------	---

中期計画	年度計画																					
(3) 災害・感染症等への適切な対応 災害・感染症等の発生時やその他の緊急時には、福岡市及び関係機関との連携の下、迅速かつ的確に対応し、市立病院としての役割を果たすとともに、他の自治体等において大規模な災害・感染症等が発生した場合は、患者受入れや医療従事者の派遣など、迅速かつ的確に医療救護活動や人的・物的支援に努める。 また、防災マニュアルやBCP（事業継続計画）の定期的な見直しを行うとともに、訓練や備蓄等、災害対応に備えた万全な体制を維持する。 ア 福岡市立こども病院 災害・感染症等の発生時やその他の緊急時には、地域の関係機関等と連携を図り、必要な医療の継続及び医療救護活動等を行うなど、中核的な小児総合医療施設としての役割を果たす。	(3) 災害・感染症等への適切な対応 ○ 市立病院としての役割を果たすため、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画を始め、院内のBCP（事業継続計画）等に基づく適切な対応が行えるよう体制を整えるとともに、院内防災マニュアルの周知や防災訓練の実施等を通じ、職員の防災意識を高める。 ○ 防災マニュアルやBCP（事業継続計画）の定期的な見直しを行うとともに、非常用発電設備及び備蓄物品等の点検を徹底して行い、災害発生時の万全な対応に備える。 ア 福岡市立こども病院 ○ 「コロナ患者の入院受入れ実施医療機関」として、引き続き、福岡県における新型コロナウイルス感染症に係る小児救急医療の提供を行う。（再掲） ○ 新興感染症等の感染拡大時における小児感染症医療の提供体制を確保するため、PPE（個人用防護具）の備蓄及び保管体制の強化等、「平時」における有事に備えた取組を行う。 ○ 外部研修に職員を積極的に派遣するなど、災害時対応能力を持った職員の育成と危機管理意識の醸成を図るとともに、病院機能を維持するため、施設・設備の減災に係る取組を行う。 また、他の自治体において大規模災害が発生した場合は、関係機関や被災した医療機関等との連携を図り、的確な医療救護活動の支援に努める。																					
【目標値】	【目標値】																					
<table><tr><th>指標</th><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 見込値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>訓練開催数 (回)</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr><tr><td>災害時参集訓練参加率(%)</td><td>—</td><td>—</td><td>90.0</td></tr></table>	指標	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	訓練開催数 (回)	3	4	5	災害時参集訓練参加率(%)	—	—	90.0	<table><tr><th>指標</th><th>令和4年度 実績値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>訓練開催数（回）</td><td>5</td><td>5</td></tr><tr><td>災害時参集訓練参加率（%）</td><td>98.4</td><td>90.0</td></tr></table>	指標	令和4年度 実績値	令和6年度 目標値	訓練開催数（回）	5	5	災害時参集訓練参加率（%）	98.4	90.0
指標	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																			
訓練開催数 (回)	3	4	5																			
災害時参集訓練参加率(%)	—	—	90.0																			
指標	令和4年度 実績値	令和6年度 目標値																				
訓練開催数（回）	5	5																				
災害時参集訓練参加率（%）	98.4	90.0																				

中期目標（内容）	災害・感染症等の発生時やその他の緊急時において、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画等に基づき、市立病院として迅速かつ的確に対応すること。
	また、他の自治体において大規模な災害・感染症等が発生した場合は、関係機関や災害協定に基づく医療機関等との連携を図るなど、迅速かつ的確に医療救護活動や人的・物的支援に努めること。

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ○ 災害発生に備え、消防計画に基づく防災訓練及び緊急時参集システムを使用した災害時参集訓練（各2回）を実施するとともに、大規模災害訓練については、高潮災害を想定した発災前から発災後復旧までの、各部署における災害タイムラインの作成から検証を主体とした訓練を実施し、職員の災害対応力の向上を図った。 ○ B C P（事業継続計画）における高潮避難計画の更新を行うとともに、半年毎に非常用発電設備、備蓄物品等の点検を行い、災害発生時の万全な対応に備えた。 ○ 「第一種協定指定医療機関」として、小児のコロナ感染患者に対する小児救急医療を提供した。（再掲） ○ 小児感染症医療の提供体制を確保するためにN95マスク等のP P E（個人用防護具）や消毒液等の必要在庫の確保と適正管理に努めた。 ○ B C P策定研修（厚生労働省主催）、災害医療ロジスティクス研修（熊本大学病院）等の外部研修に職員を派遣（延べ9人）し、危機対応能力を持った職員の育成に取り組んだ。 また、高潮災害に備え、非常用発電機用の燃料ポンプ室の防水工事を行うなど、施設・設備の減災に係る取組を行った。	2	3	4	○ 災害への対応訓練の実施や備蓄物品の確保等、必要な対策に着実に取り組んだ。 ○ また、各種研修への派遣を通じて職員の対応能力向上に取り組むとともに、高潮災害に備え、B C P（事業継続計画）の更新に加えて非常用発電機用の燃料ポンプ室の防水工事を実施するなど、非常時の備えに積極的に取り組んだことから、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。
【実績値】				
指標	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値		
訓練開催数（回）	6	5		
災害時参集訓練 参加率（%）	98.3	99.8		

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ 高潮災害を想定した災害タイムラインの作成やP P E（個人用防護具）の必要在庫の確保、外部研修への派遣による危機対応能力を持った職員の育成など、事業を継続するために必要な取組を行うとともに、高潮災害に備えた施設・設備の減災に係る取組を行うなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。				

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 医療サービス (3) 災害・感染症等への適切な対応
中期計画	年度計画
(3) 災害・感染症等への適切な対応 災害・感染症等の発生時やその他の緊急時においては、福岡市及び関係機関との連携の下、迅速かつ的確に対応し、市立病院としての役割を果たすとともに、他の自治体等において大規模な災害・感染症等が発生した場合は、患者受入れや医療従事者の派遣など、迅速かつ的確に医療救護活動や人的・物的支援に努める。 また、防災マニュアルやBCP（事業継続計画）の定期的な見直しを行うとともに、訓練や備蓄等、災害対応に備えた万全な体制を維持する。 イ 福岡市民病院 災害発生時やその他の緊急時においては、必要な医療の継続及び救護活動を実施するとともに、感染症発生時においては、感染症指定医療機関として、他の医療機関等との連携を図りながら、福岡市における対策の先導的かつ中核的な役割を果たす。	(3) 災害・感染症等への適切な対応 ○ 市立病院としての役割を果たすため、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画を始め、院内のBCP（事業継続計画）等に基づく適切な対応が行えるよう体制を整えるとともに、院内防災マニュアルの周知や防災訓練の実施等を通じ、職員の防災意識を高める。 ○ 防災マニュアルやBCP（事業継続計画）の定期的な見直しを行うとともに、非常用発電設備及び備蓄物品等の点検を徹底して行い、災害発生時の万全な対応に備える。 イ 福岡市民病院 ○ 他の自治体において大規模災害が発生した場合は、関係機関や被災した医療機関等との連携を図るなど、的確に医療救護活動の支援に努める。 ○ 福岡県感染症予防計画と福岡市感染症予防計画に基づき、新興感染症発生早期から第二種感染症指定医療機関として福岡市における対策の先導的かつ中核的な役割を果たす。

中期目標(内容)	災害・感染症等の発生時やその他の緊急時において、福岡市地域防災計画、各種感染症の対策行動計画等に基づき、市立病院として迅速かつ的確に対応すること。 また、他の自治体において大規模な災害・感染症等が発生した場合は、関係機関や災害協定に基づく医療機関等との連携を図るなど、迅速かつ的確に医療救護活動や人的・物的支援に努めること。 イ 福岡市民病院 必要な医療の継続及び救護活動を実施するとともに、感染症発生時においては、感染症指定医療機関として福岡市における対策の先導的かつ中核的役割を果たすため、必要な対応を図ること。
-----------------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ○ 市立病院としての役割を果たすため、災害発生に備え、緊急時参集システムを使用した災害時参集訓練を2回実施し、職員の防災意識及び対応力を高めるとともに、BCP（事業継続計画）や災害時の患者対応フローの見直しを行った。併せて、非常用発電設備、備蓄物品の点検等を徹底した。また、消防総合訓練については、10月には当院として初めて実践に即した図上訓練を実施するとともに、3月には博多消防署との合同で、より実践的なはしご車による患者搬送などの訓練を行った。 ○ 12月に感染症対応を目的として、福岡空港検疫所支所、福岡市保健所、福岡市民病院での合同訓練（机上・実動）を行った。福岡空港での検疫時にMER S（中東呼吸器症候群）疑似症患者の発見を想定し、発見から医療機関への搬送・受入れまでの一連の対応手順の確認・検証を通じ、連携強化及び危機管理体制強化を図った。 ● J P T E C (Japan Prehospital Trauma Evaluation and Care)プロバイダーコースに講師として看護師2名の派遣を行った。 ※ J P T E C 我が国のすべての病院前救護にかかわる人々が習得すべき知識と体得すべき技能が盛り込まれた活動指針 ● M C L S (Mass Casualty Life Support : 多数傷病者への医療対応)プロバイダーコース・インストラクターコースに講師として医師1名（延べ2回）の派遣を行った。 ○ 感染管理認定看護師の段階的な増員について、令和5年度に資格を取得した感染管理認定看護師については令和6年度より専任配置となった。また認定看護師教育課程を受講していた1名については同課程を修了し、令和7年度に資格試験を受験する予定である。	2	3	4	○ B C P（事業継続計画）等の見直しや設備点検など、災害発生時への備えに着実に取り組んだ。 ○ 救急・災害医療の研修会への講師派遣や、消防訓練についてより実践的な内容で実施したことに加え、関係機関との合同訓練を行い感染症対応力の強化を図るなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】				【目標値】		
指標	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	指標	令和4年度 実績値	令和6年度 目標値
訓練開催数 (回)	6	4	6	訓練開催数 (回)	5	5
災害時参集訓練 参加率 (%)	—	—	90.0	災害時参集訓練 参加率 (%)	98.3	90.0

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価										
			ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど									
【実績値】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>令和5年度 実績値</th> <th>令和6年度 実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訓練開催数（回）</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>災害時参集訓練参 加率（％）</td> <td>99.9</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table> 【自己評価の判断理由】 ○ 博多消防署や福岡空港検疫所支所、福岡市保健所など行政との各種合同訓練を実施するとともに、救急・災害医療の研修会への講師派遣といった活動を推進するなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。			指標	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	訓練開催数（回）	5	5	災害時参集訓練参 加率（％）	99.9	100.0				
指標	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値													
訓練開催数（回）	5	5													
災害時参集訓練参 加率（％）	99.9	100.0													

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
	2 患者サービス (1) 患者サービスの向上

中期計画	年度計画																			
(1) 患者サービスの向上 ① 患者満足度調査等を実施し、患者及び家族の多様なニーズを的確に捉えた上で、ボランティアなどとの連携を図るとともに、ICT（情報通信技術）の積極的な活用等により、効率的かつ効果的な患者サービスの向上を図る。 ② 患者やその家族が安心して医療を享受できるよう、社会的、経済的悩みや不安等に適切に対応する。 ③ 院内環境の整備を進め、より快適な療養環境を提供する。 【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="3">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 見込値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>退院時アンケートの平均評価点数（100点満点）</td><td>89.0</td><td>89.0</td><td>89.0</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容等	指標	福岡市立こども病院			令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	退院時アンケートの平均評価点数（100点満点）	89.0	89.0	89.0	(1) 患者サービスの向上 ア 福岡市立こども病院 ① 退院時アンケート等やホームページによる患者・家族からの意見等を踏まえ、ICT（情報通信技術）を活用し、患者及び家族の利便性の向上を図る。 感染症流行時等におけるボランティアの活動基準を確立し、積極的にボランティアとの連携を図るとともに、ICTを活用したイベント等を企画し、療養中の患者及び患者家族の満足度の向上を図る。 ② 患者家族の医療等の相談について、相談支援窓口において適切に対応する。 ③ 院内の接遇・療養環境委員会を中心に、関係部署とも協議しながら、院内環境を整備し、患者・家族の療養環境改善を図る。 【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和4年度 実績値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>退院時アンケートの平均評価点数（100点満点）</td><td>89.4</td><td>89.0</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容等	指標	福岡市立こども病院		令和4年度 実績値	令和6年度 目標値	退院時アンケートの平均評価点数（100点満点）	89.4	89.0
指標		福岡市立こども病院																		
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																	
退院時アンケートの平均評価点数（100点満点）	89.0	89.0	89.0																	
指標	福岡市立こども病院																			
	令和4年度 実績値	令和6年度 目標値																		
退院時アンケートの平均評価点数（100点満点）	89.4	89.0																		

中期目標（内容）	選ばれる病院であり続けるため、ＩＣＴ（情報通信技術）の積極的な活用などにより、効率的かつ効果的なサービスの展開に努めるほか、ボランティア等との連携を図ることにより、多様な市民・患者一人ひとりの視点に立った患者サービスの向上に努めること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価									
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど								
ア 福岡市立こども病院 ① 6月に外部の弁当宅配サービスを開始し、入院付添者の利便性の向上を図るとともに、11月に患者本人向けの退院時アンケートを開始するなど、患者及び患者家族の要望をより反映できるよう体制を強化した。 患者及び患者家族の利便性の向上を図るため、4月にスマートフォンアプリを利用した患者呼出システムの本格運用を開始した。 引き続き地元プロスポーツ球団等の病棟慰問やボランティア団体によるロビーコンサート等のイベントについて実施したほか、ボランティアとの協同によるクリスマス会や入院中の子どもと家族のための家族写真撮影会を開催するなど、患者サービスの向上を図った。 ② 医療・福祉・療育に関する相談や在宅療養生活への支援、転医・転院等に関する相談について、相談支援窓口において、適宜適切な対応を行った（6年度13,006件）。 ③ NICU及びGCUの窓ガラスへの遮光カーテンや遮光フィルムの取付け、5階東病棟の共用シャワー室の手摺の増設など、患者の療養環境の改善を図った。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和5年度 実績値</th><th>令和6年度 実績値</th></tr><tr><td>退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)</td><td>90.2</td><td>90.2</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容等	指標	福岡市立こども病院		令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	90.2	90.2	2	3	3	○ 指標は目標値を上回っており、また、共用シャワー室の手摺の増設等、患者の療養環境の改善に取り組み、スマートフォンアプリを利用した患者呼出システムの本格運用開始など、患者サービス向上に着実に取り組んでいることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。
指標		福岡市立こども病院										
	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値										
退院時アンケート の平均評価点数 (100点満点)	90.2	90.2										

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ 患者本人向けの退院時アンケートを開始し、患者及び患者家族の要望をより反映できるよう体制を強化したほか、スマートフォンアプリを利用した患者呼出システムの本格運用開始など利便性の向上に取り組むとともに、院内環境を整備するなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。				

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
	2 患者サービス (1) 患者サービスの向上

中期計画	年度計画																			
(1) 患者サービスの向上 ① 患者満足度調査等を実施し、患者及び家族の多様なニーズを的確に捉えた上で、ボランティアなどとの連携を図るとともに、ICT（情報通信技術）の積極的な活用等により、効率的かつ効果的な患者サービスの向上を図る。 ② 患者やその家族が安心して医療を享受できるよう、社会的、経済的悩みや不安等に適切に対応する。 ③ 院内環境の整備を進め、より快適な療養環境を提供する。	(1) 患者サービスの向上 イ 福岡市民病院 ① 職員の接遇、療養環境等に関する患者満足度調査や外来待ち時間調査、入院患者への食事アンケート等を引き続き実施し、患者のニーズを的確に把握して改善を図る。 ② 患者・家族等からの医療・福祉に関する相談等について、患者サポート相談窓口を中心に適切に対応する。 ③ 病院施設の老朽化が進んでいるため、病棟内の療養環境改善や保全に努める。病棟デイルームについては、感染対策やプライバシーに配慮した環境を整える。																			
【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="3">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 見込値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>患者満足度調査における平均評価点数 (100点満点)</td><td>89.6</td><td>89.8</td><td>89.8</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容、診療内容等	指標	福岡市民病院			令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	患者満足度調査における平均評価点数 (100点満点)	89.6	89.8	89.8	【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和4年度 実績値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>患者満足度調査における平均評価点数 (100点満点)</td><td>90.5</td><td>90.0</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容、診療内容等	指標	福岡市民病院		令和4年度 実績値	令和6年度 目標値	患者満足度調査における平均評価点数 (100点満点)	90.5	90.0
指標		福岡市民病院																		
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																	
患者満足度調査における平均評価点数 (100点満点)	89.6	89.8	89.8																	
指標	福岡市民病院																			
	令和4年度 実績値	令和6年度 目標値																		
患者満足度調査における平均評価点数 (100点満点)	90.5	90.0																		

中期目標(内容)	選ばれる病院であり続けるため、ICT（情報通信技術）の積極的な活用などにより、効率的かつ効果的なサービスの展開に努めるほか、ボランティア等との連携を図ることにより、多様な市民・患者一人ひとりの視点に立った患者サービスの向上に努めること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価									
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど								
イ 福岡市民病院 ① 患者満足度調査を毎月実施し、患者のニーズを把握するとともに、職員の接遇に関する指摘等に対しては、当該職員及びその所属長へフィードバックして指導を行うなど、改善を図った。 年に2回、夏と冬に外来アンケートを行っているが、7月のアンケートにおいて会計に時間がかかるとの指摘を受けたため、令和7年1月にクレジットカード決済端末を1台増やし、計2台で会計処理が円滑に進むよう、改善を図った。 また、患者からの指摘・意見に対しては「病院へのご意見・ご要望」と題した該当部署からの回答を院内各所へ掲示することで、令和7年1月より医療サービスの質向上に向けた活動に取り組んだ。 ② 患者・家族等からの医療・福祉に関する相談等（6年度2,505件）について、患者サポート相談窓口を中心に適切に対応した。 ③ 病棟内の療養環境改善のため、床頭台のテレビの更新を行った。また、感染対策の観点から、紙コップを使用できるティーサーバーを引き続き設置している。 ● 福岡市が進めている分身ロボット「OriHime（オリヒメ）」を活用した実証事業に協力し、外出が困難な重度障がい者等4人が交替でロボットの遠隔操作による総合案内業務を行った。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和5年度 実績値</th><th>令和6年度 実績値</th></tr><tr><td>患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）</td><td>91.4</td><td>91.6</td></tr></table> ※対象者・・・入院患者 ※評価項目・・・接遇、療養環境、食事内容、診療内容等	指標	福岡市民病院		令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	91.4	91.6	2	3	3	○ 指標は目標値を上回っており、また、外来アンケートの要望等を踏まえ、クレジットカード決済端末を増設するなど、患者、患者家族等の利便性向上に取り組むとともに、患者からの指摘・意見に対しての回答を院内各所へ掲示するなど、患者サービス向上に着実に取り組んでいることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。
指標		福岡市民病院										
	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値										
患者満足度調査における平均評価点数（100点満点）	91.4	91.6										

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ 患者のニーズを把握し医療サービスの質向上に向けた改善活動を行うとともに、患者・家族等からの相談に適切に対応するなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。				

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 患者サービス (2) 情報発信
中期計画	年度計画
(2) 情報発信 ホームページ等の様々な媒体を活用して、病院の持つ機能や治療実績等、積極的な情報発信に取り組むとともに、安心して受診できるように、市民に開かれた病院づくりに努める。	(2) 情報発信 ア 福岡市立こども病院 ○ 診療内容、医療サービスや「病院指標（独自指標を含む。）」に示される治療実績等について、広報誌やホームページ、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等を活用して分かりやすい情報発信に取り組み、患者が安心して受診できるよう、市民に開かれた病院づくりに努める。 ○ 地域の子育て世代や、元気な高齢者を対象に、多世代の交流や医療を通じて子育て・孫育てを実現することを目的に、CGG (Child Grandchild Good-Care) プログラムを引き続き実施する。 ○ こどもアレルギーセンターにおいて、保護者や幼稚園・保育園・学校関係者向けの講演会を開催し、小児アレルギー疾患に関する知識の向上を図る。

中期目標（内容）	ホームページや広報誌等により、病院の役割や医療内容等を積極的に情報発信するなど、市民・患者に開かれた病院づくりに努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ○ 登録医宛にニュースレターを送付し、当院の取組や研修会等の案内を行うとともに、「病院指標」をホームページに公開し、一般の人にも分かりやすい解説を行った。 また、患者用クリニカルパスの更なる充実を図り、当該クリニカルパスの公開による治療内容の可視化を実施した（公開パス数：6年度15疾患、5年度15疾患）。 ○ ホームページのアクセス状況の解析結果を基に、情報が探しやすいホームページとなるよう改修を行うとともに、子どもを対象としたコンテンツ「こどものページ」の充実を図るため、プレパレーション動画を新たに5つ作成・公開した。 ○ SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を活用して、院内イベント等に係る情報発信を行った（LINE13回、Facebook40回、Instagram42回）。 また、地域住民を対象に、育児への関心を高めるための取組として、地元の公民館と共同で、「こども病院生涯学習講座CGG（Child Grandchild Good-Care）」を2回開催した（7月テーマ：「歯の科学 “なぜむし歯になるの？”」、参加者：25人、2月テーマ：「電子メディアと育児～スマホ育児が与える影響と対策～」、参加者：34人）。 10月には、福岡市総合体育館で開催されたアイランドシティフェスティバルに参加して、病院のドクターカーを展示し、車載搭載機器の説明をするなど情報発信を行った（参加者：436人）。 ○ 「こどもアレルギーセンター」において、アレルギー疾患に係る知識向上を目的とした講演会を計3回開催した（参加者延べ152人）。 ● 多くの子育て中の保護者に、子どもの病気や正しい対処法等の情報を届けることを目的として、専門医による新聞コラムを計10回掲載した。	1	3	3	○ 指標は目標値を達成しており、広報誌やホームページ等を活用した情報発信に取り組むとともに、専門医による新聞紙面上でのコラム掲載を継続して行うなど、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】				【目標値】		
指標	福岡市立こども病院			指標	福岡市立こども病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和4年度 実績値	令和6年度 目標値
病院ホームページ のアクセス数 (件)	377,866	400,000	400,000	病院ホームページ のアクセス数 (件)	425,524	320,000
広報誌発行 回数 (回)	3	4	4	広報誌発行回数 (回)	4	4

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】						
指 標	福岡市立こども病院					
	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値				
病院ホームページ のアクセス数 (件)	373, 238	350, 355				
広 報 誌 発 行 回 数 (回)	4	4				
【自己評価の判断理由】 ○ 広報誌やホームページ等を活用した情報発信を行うとともに、地域住民を対象とした講座及び子育て中の保護者を対象とした専門医による新聞コラムの掲載を継続して行うなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。						

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項
	2 患者サービス (2) 情報発信

中期計画	年度計画																										
(2) 情報発信 ホームページ等の様々な媒体を活用して、病院の持つ機能や治療実績等、積極的な情報発信に取り組むとともに、安心して受診できるように、市民に開かれた病院づくりに努める。	(2) 情報発信 イ 福岡市民病院 ○ ホームページや広報誌、オンラインイベントシステム等を活用して、病院の機能や役割を広く情報発信し、市民に開かれた病院づくりに努める。 また、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を活用した情報発信にも取り組む。 ○ 地域住民の健康意識の向上を図るため、地域のニーズをいち早く把握して、出前講座による草の根活動に取り組む。																										
【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="3">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 見込値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>病院ホームページのアクセス数（件）</td><td>180,889</td><td>191,138</td><td>192,500</td></tr><tr><td>広報誌発行回数（回）</td><td>4</td><td>3</td><td>4</td></tr></table>	指標	福岡市民病院			令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	病院ホームページのアクセス数（件）	180,889	191,138	192,500	広報誌発行回数（回）	4	3	4	【目標値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和4年度 実績値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>病院ホームページのアクセス数（件）</td><td>128,814</td><td>130,000</td></tr><tr><td>広報誌発行回数（回）</td><td>4</td><td>4</td></tr></table>	指標	福岡市民病院		令和4年度 実績値	令和6年度 目標値	病院ホームページのアクセス数（件）	128,814	130,000	広報誌発行回数（回）	4	4
指標		福岡市民病院																									
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																								
病院ホームページのアクセス数（件）	180,889	191,138	192,500																								
広報誌発行回数（回）	4	3	4																								
指標	福岡市民病院																										
	令和4年度 実績値	令和6年度 目標値																									
病院ホームページのアクセス数（件）	128,814	130,000																									
広報誌発行回数（回）	4	4																									

中期目標（内容）	ホームページや広報誌等により、病院の役割や医療内容等を積極的に情報発信するなど、市民・患者に開かれた病院づくりに努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価												
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど											
イ 福岡市民病院 ○ SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の活用としてInstagramの利用を7月から開始し、感染症予防、脳卒中の早期発見や職員採用に関する投稿を行った。 ○ 地域住民の健康意識の向上と、地域に根差した情報発信を目的として出前講座を開催した（6年度1施設、14人参加）。 ● 福岡市民の健康の維持・増進、また広く医療に関する情報提供を行うことを目的として市政だよりに当院の医師による情報発信が掲載された（6月リウマチ月間、7月熱中症予防）。発行部数も多く、公共性の観点からも有用であったと考える。 ● 西日本新聞（6月リウマチ月間、8月熱中症予防、12月マイナ保険証、1月感染症）、読売新聞（1月MERS（中東呼吸器症候群）合同訓練）で計5回当院の記事が掲載された。 【実績値】 <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和5年度 実績値</th><th>令和6年度 実績値</th></tr><tr><td>病院ホームページ のアクセス数（件）</td><td>129,010</td><td>146,039</td></tr><tr><td>広報誌発行回数 （回）</td><td>4</td><td>4</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ SNSを活用した広報や、市政だより・新聞記事による情報発信を積極的に行うなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。	指標	福岡市民病院		令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	病院ホームページ のアクセス数（件）	129,010	146,039	広報誌発行回数 （回）	4	4	1	3	3	○ 指標は目標値を達成しており、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を活用した広報や地域住民向けの出前講座開催に取り組むとともに、新たに市政だよりや新聞記事による情報発信に取り組むなど、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。
指標		福岡市民病院													
	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値													
病院ホームページ のアクセス数（件）	129,010	146,039													
広報誌発行回数 （回）	4	4													

中期目標（項目）	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修
中期計画	年度計画
(1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修 ① 収支への影響も踏まえながら、中長期的な医療環境の変化等を見据え、優れた知識と専門性を有する人材の計画的な確保に努める。 ② 院内研修の充実や外部の専門研修等を活用し、職員の資質向上を図る。 ③ 積極的に職員に資格取得を奨励し、専門職としての知識・技術の向上を図る。また、資格取得を支援する制度の充実に努める。	(1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修 ア 福岡市立こども病院 ① 適正な人員配置及び優れた知識と専門性を有する人材の計画的な確保に努める。 意欲ある研修医等の確保を目的として、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等を活用し、カンファレンスや研修会、教育プログラム等の情報発信に努める。 看護師については、意欲ある人材を確保するため、病院説明会及び見学会を開催するとともに、専従教育担当職員による看護職員等への研修を重点的に実施するなど、職員の資質向上に努める。 ② 新規採用職員を対象とした情報セキュリティ・人権・接遇などの研修を行うとともに、全職員を対象に医療の質向上研修を行うほか、多職種間で心理的安全性の向上を図る集合研修を行うことで、医療の質の向上を図る。 ③ 看護師の専門性や能力の向上を図るため、認定看護師等資格取得支援制度の活用を促し、有資格者の拡大に努めるとともに、看護師以外の専門職についても、告示研修の受講支援等を行い、専門知識・技術の向上及びタスクシェアリングやタスクシフティングの更なる推進に努める。

中期目標(内容)	医療水準を向上させるため、医療環境の変化を見据え、中長期的な観点から、優れた知識と専門性を有する人材の確保に努めること。 また、研修体制の充実などにより、スタッフの専門性や医療技術の向上を図ること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ① 初期研修医や医学部学生を対象とした「F u k u o k a C H O P P S (Children's Hospital Practical Pediatric Seminar)」を開催し、意欲ある研修医等の確保に努めた(6年度3回開催、延べ33人参加、5年度3回開催、延べ70人参加)。 看護学生の実習(延べ2,245人)を積極的に受け入れるとともに、看護学生等を対象とした「病院説明会・見学会」を11回開催し、延べ180人(5年度7回開催、延べ214人参加)の参加を得るなど、意欲ある人材の確保に努めた。 また、専従教育担当職員が中心となり、新人看護職員を対象とした研修を計画的に開催し、看護職員の資質向上に努めるとともに、他施設に従事する新人看護職員を対象にした小児看護研修を1回開催し、29人(5年度1回開催延べ22人参加)の参加を得るなど、小児専門病院としての役割遂行に努めた。 ② 新規採用職員を対象とした情報セキュリティ・倫理・医療接遇・心理的安全性等の研修を行うとともに、全職員を対象に医療の質向上研修(テーマ:「苦情対応のポイント」)を実施した。 ③ 専門職としての知識・技術の向上を図るため、認定看護師等資格取得支援制度の活用を促進し、令和6年度は「皮膚・排泄ケア認定看護教育課程(A課程)」の修了(1人)、令和7年度特定行為研修(集中治療)の受講(1人)及び認定看護師養成課程「感染管理」B課程の受講が決定するなど、有資格者の拡大に努めたほか、各種学会や研修の費用(延べ392名)、診療放射線技師、臨床検査技師及び臨床工学技士の告示研修の受講に係る支援を行った(計13人)。	2	3	3	○ 指標は目標値を上回っており、また、病院説明会の開催等による意欲ある人材の確保や、計画的な研修の実施、認定看護師等資格取得者の拡大など、人材育成に積極的に取り組んでいることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。 ○ なお、担当医師の不足により、診療体制や経営面に影響が生じていることから、事態の解消に向け早急に対応されたい。

中期計画				年度計画		
【目標値】 (単位：%)				【目標値】 (単位：%)		
指標	福岡市立こども病院			指標	福岡市立こども病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和4年度 実績値	令和6年度 目標値
医療の質向上 研修受講率	—	—	90.0	医療の質向上 研修受講率	95.3	90.0

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】 (単位: %)						
指標	福岡市立こども病院					
	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値				
医療の質向上 研修受講率	95.3	99.7				
【自己評価の判断理由】						
○ 意欲ある人材確保に向けた取組の実施、新人看護職員等への計画的な研修の実施、他施設に従事する新人看護職員を対象とした研修の開催、認定看護師等資格取得支援制度を活用した有資格者の拡大など、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。						

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修
----------	--

中期計画	年度計画
(1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修 ① 収支への影響も踏まえながら、中長期的な医療環境の変化等を見据え、優れた知識と専門性を有する人材の計画的な確保に努める。 ② 院内研修の充実や外部の専門研修等を活用し、職員の資質向上を図る。 ③ 積極的に職員に資格取得を奨励し、専門職としての知識・技術の向上を図る。また、資格取得を支援する制度の充実に努める。	(1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修 イ 福岡市民病院 ① 適正な人員配置及び優れた知識と専門性を有する人材の計画的な確保に努める。 I C T (情報通信技術) を活用等し業務の効率化、看護師を始めとした職員の臨床教育における効果・効率・魅力を高めるための取組を推進する。 S N S (ソーシャルネットワーキングサービス) を活用した看護部の教育体制や取組に関する情報発信を行い、優れた人材の確保に努める。 ② 新規採用職員を対象とした情報セキュリティや人権、接遇研修のほか、全職員を対象とした医療の質向上に資する研修等を実施するなど、院内研修の充実を図るとともに、外部の専門研修等も活用しながら職員の資質向上を図る。 ③ 看護部においては、認定看護師等資格取得支援制度を活用した積極的な資格取得を奨励し、専門職としての知識・技術の向上を図る。看護師の特定行為研修修了者の効果的な配置と活用による医師との協働を推進する。

中期目標(内容)	医療水準を向上させるため、医療環境の変化を見据え、中長期的な観点から、優れた知識と専門性を有する人材の確保に努めること。 また、研修体制の充実などにより、スタッフの専門性や医療技術の向上を図ること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ① 看護師については、産・育休取得者の代替として、派遣会社からの夜勤専従等の派遣看護師を活用することで看護師確保に努め、7対1看護基準を維持しながら、看護職員の負担軽減を図った。また、外部の就職説明会へブースを出して参加したり、病院見学会を開催の際は看護部作成のPR動画を活用したり、採用活動に積極的に取り組んだ。併せて、意欲ある人材を確保するため、感染予防対策を十分に行った上で、看護学校実習生を延1,503人(4校)受け入れた。 職員の育児休業等による欠員に対して、代替職員の配置を適宜行うなど職種ごとの定数管理を確実に行った。 医師の働き方改革については、リアルタイムに時間外労働時間を把握しながら、A水準を維持するため、働き方改革コアメンバー会議にて適正な労働時間管理を実施した。 院内のワーク・ライフ・バランス推進委員会において、引き続き、年次有給休暇の取得率向上に向けた周知活動に取り組むなど、職員がやりがいや充実感を感じる職場環境づくりを推進した(看護職員離職率:6年度7.6%、5年度8.9%、4年度7.3%)。 ② 集合研修や、オンラインイベントシステムを活用したWeb研修、勉強会等を院内で適宜開催するとともに、職員へ外部研修の積極的な参加を促進するなど、職員の資質向上に取り組んだ。 ③ 専門職としての知識や技術の向上を図るため、認定看護師等資格取得支援制度を活用するとともに、職務に必要な資格取得や研修受講等を積極的に促進した。当院で開講する特定行為研修についても、3人(栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連:2人、術中麻酔管理領域:1人)の受講が修了した。 また、2人が院外での特定行為研修受講を修了した(感染に係る薬剤投与関連:1人、精神及び神経症状に係る薬剤投与関連:1人)。	2	3	3	○ 指標は目標値を上回っており、配置基準に必要な職員を着実に確保・配置しつつ、採用活動に積極的に取り組むとともに、ワーク・ライフ・バランス推進の取組や、意欲ある人材を確保するための実習生の受入れを継続して行うなど、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】 (単位：%)				【目標値】 (単位：%)		
指標	福岡市民病院			指標	福岡市民病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和4年度 実績値	令和6年度 目標値
医療の質向上 研修受講率	—	—	90.0	医療の質向上 研修受講率	100.0	90.0

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】(単位：％)						
指標	福岡市民病院					
	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値				
医療の質向上 研修受講率	99.6	100.0				
【自己評価の判断理由】 ○ 派遣看護師の活用など看護職員の負担軽減を図りながら、採用活動に積極的に取り組むとともに、資格取得支援を継続して行うなど、年度計画を着実に実施したことから、自己評価は「3」とする。						

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践
----------	--

中期計画	年度計画
(2) 信頼される医療の実践 ① 院内感染防止マニュアルの整備や定期的な院内感染対策委員会の開催などによる院内感染防止対策を徹底するとともに、医療安全管理者を中心に医療安全に関する情報の収集・分析及び院内研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ② クリニカルパスを活用した治療内容の可視化や十分な説明に基づくインフォームド・コンセント／アセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ③ 医療の質の確保・向上のため、第三者機関による外部評価等を活用するとともに、チーム医療の実践や多職種による患者指導の充実など、安全・安心な医療を提供する。	(2) 信頼される医療の実践 ア 福岡市立こども病院 ① 感染対策室、院内感染対策委員会、I C T（感染制御チーム）及びA S T（抗菌薬適正使用支援チーム）の連携により、院内感染防止対策を徹底するとともに、医療安全管理者を中心とした Team S T E P P S[®]（Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety）の推進によるリスクマネジメントや、医療安全レポート提出の推進、医療従事者への教育・研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ② クリニカルパスの充実により、ケアの標準化、均質化を図り、医療の質の向上に努めるとともに、その活用による治療内容の可視化や十分な説明に基づくインフォームド・コンセントやインフォームド・アセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ③ 令和3年5月に認定を受けた病院機能評価で明らかとなった課題に対する業務改善に継続して取り組む。 管理栄養士による栄養食事指導・相談を充実させるとともに、P I C U（小児集中治療室）における早期栄養介入を積極的に実施する。 また、薬剤師による集中治療系病棟における薬物療法への関与や全病棟におけるT P N（中心静脈栄養輸液）無菌調製に加え、集中治療系病棟以外の病棟についても段階的に薬剤師を配置し、良質な薬物療法を実施する。

中期目標（内容）	市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、院内感染防止対策を確実に実施するとともに、医療事故に関する情報の収集・分析に努め、医療安全対策の徹底を図ること。 また、患者が自ら受ける医療の内容を理解し、納得の上で自分に合った治療法を選択できるよう、十分な説明に基づくインフォームド・コンセントを徹底するなど、患者中心の医療を実践すること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ① 専従の感染管理認定看護師を配置した感染対策室、院内感染対策委員会及び感染制御チーム（ICT）の連携を推進するとともに、地域の医療機関とのカンファレンスを4回、相互訪問ラウンドを2回実施するなど、感染防止対策の強化を図った。 また、医療安全管理室では、新入職員に対するTeamSTEPPS®（Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety）研修や、TeamSTEPPS®スキルを活用したインシデントの振り返りを推進するとともに、全職員を対象とした研修会やキャンペーンを開催し、医療安全対策の強化を図った。 ② 職員向けクリニカルパス勉強会を1回（5年度1回）開催し、クリニカルパス委員会を中心とした普及・啓発活動を行った結果、クリニカルパスの数が増加した（6年度65種類、67疾患、5年度58種類、60疾患）。退院患者の47.0%（5年度45.3%）に使用され、ケアの標準化、均質化が図られた結果、医療の質に寄与した。 ③ 診療録の記載内容に係る改善活動として、院内のケアプロセス形式監査を3回実施するなど、令和3年5月に認定を受けた病院機能評価で明らかとなった課題に対する業務改善に継続的に取り組んだ。 管理栄養士による栄養食事指導・相談については目標値を大幅に上回るなど、積極的に取り組んだ。 また、引き続き一般病棟にも薬剤師を配置し、薬剤師の薬物療法への関与による医療安全の確保や医師及び看護師の負担軽減を図った。	2	3	4	○ 院内外の連携による感染防止対策の強化や院内医療安全対策に係る研修を積極的に実施する等、安全・安心な医療の提供に、着実に取り組んでいる。 ○ 薬剤管理指導件数は目標を下回っているが、薬剤師の一般病棟への配置及び薬物療法への関与を引き続き実施し、医療安全の確保を図った。また、栄養食事指導・相談についても積極的に取り組み、開院以来最多の件数を実施するなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】				【目標値】		
指標	福岡市立こども病院			指標	福岡市立こども病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和4年度 実績値	令和6年度 目標値
医療安全等の研修 開催数（回）	57	50	50	医療安全等の研修 開催数（回）	38	35
薬剤管理指導 件数（件）	4,929	3,580	5,000	薬剤管理指導件数 （件）	4,342	6,500
栄養食事指導・相談 件数（件）	1,412	1,200	1,300	栄養食事指導・相談 件数（件）	1,501	1,700

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】						
指標	福岡市立こども病院					
	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値				
医療安全等の研修 開催数（回）	45	53				
薬剤管理指導件数 （件）	6,121	5,368				
栄養食事指導・相談 件数（件）	1,736	1,872				
【自己評価の判断理由】						
○ 医療安全等の研修開催数及び栄養食事指導 ・相談件数の指標で目標を上回るとともに、 感染防止対策の強化やTeam S T E P P S®研 修会の開催等による医療安全対策の強化な ど、安全・安心な医療の提供に積極的に取り 組んだ。 また、病院機能評価で明らかとなった課題 に対する業務改善に継続的に取り組むととも に、薬剤師の薬物療法への関与による医療安 全の確保を図るなど、年度計画を順調に実施 していると判断し、自己評価は「3」とす る。						

中期目標(項目)	第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 医療の質の向上 (2) 信頼される医療の実践
中期計画	年度計画
(2) 信頼される医療の実践 ① 院内感染防止マニュアルの整備や定期的な院内感染対策委員会の開催などによる院内感染防止対策を徹底するとともに、医療安全管理者を中心に医療安全に関する情報の収集・分析及び院内研修を実施するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ② クリニカルパスを活用した治療内容の可視化や十分な説明に基づくインフォームド・コンセント／アセントの徹底を図り、患者中心の医療を実践する。 ③ 医療の質の確保・向上のため、第三者機関による外部評価等を活用するとともに、チーム医療の実践や多職種による患者指導の充実など、安全・安心な医療を提供する。	(2) 信頼される医療の実践 イ 福岡市民病院 ① 新型コロナウイルス感染症対策における経験を踏まえた院内感染防止対策を徹底するとともに、感染対策部門及び「I C I C (感染対策情報発信センター)」を中心とした研修会や訓練、地域の医療機関等との合同カンファレンスの実施を通じて、地域における感染対策の質の向上に取り組む。また、医療安全管理者を中心とした教育研修の実施や、他施設との医療安全相互チェックを継続するなど、医療安全対策の徹底を図る。 ② 医療の質の向上を目的としたクリニカルパスを積極的に活用し、より分かりやすいインフォームド・コンセントの徹底やホームページへの公開による治療内容の可視化等、患者中心の医療を実践する。 ③ 公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価について、院内にプロジェクト会議を設置し、令和7年度中の更新に向けた準備を進める。

中期目標(内容)	市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、院内感染防止対策を確実に実施するとともに、医療事故に関する情報の収集・分析に努め、医療安全対策の徹底を図ること。 また、患者が自ら受ける医療の内容を理解し、納得の上で自分に合った治療法を選択できるよう、十分な説明に基づくインフォームド・コンセントを徹底するなど、患者中心の医療を実践すること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ① 感染症専門医を中心に、院内感染対策委員会及び感染制御チーム（ICT）の連携により院内感染防止対策を徹底するとともに、他病院との共同カンファレンス（3回）や相互ラウンド（2回）等を通じて、耐性菌検出状況や抗菌薬適正使用への取組、感染対策に関する情報交換、第三者的視点からの相互評価等を行った。 また、医療安全対策地域連携ネットワークにおいて、参加施設間での意見交換・相互評価を実施（3回）し、自院だけでなく地域における医療安全対策の質の向上に取り組んだ。 ② クリニカルパス専任看護師を配置することで医療の質の向上を目的としたパスを積極的に活用し、より分かりやすいインフォームド・コンセントの徹底やホームページへの公開（公開パス数：6年度104疾患）による治療内容の可視化等、患者中心の医療を実践した。 ③ 公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価について、令和7年度中の更新に向けて、各評価項目について確認を行い改善に努めた。	2	3	4	○ 感染症専門医を中心として院内感染防止対策を着実に進めた。 ○ 薬剤管理指導件数は目標をわずかに下回ったが、栄養食事指導・相談件数、がん患者指導件数は前年比で大きく増加し目標値を達成している。また、クリニカルパス専任看護師の配置を行い、患者中心の医療の実践を図るなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】				【目標値】		
指標	福岡市民病院			指標	福岡市民病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和4年度 実績値	令和6年度 目標値
医療安全等の研修 開催数（回）	26	16	28	医療安全等の研修 開催数（回）	26	25
薬 剤 管 理 指 導 件数（件）	9,588	7,612	9,000	薬剤管理指導件数 （件）	5,925	7,150
栄養食事指導・相談 件数（件）	1,144	806	1,098	栄養食事指導・相談 件数（件）	1,001	900
がん患者指導 件数（件）	8	24	30	がん患者指導件数 （件）	84	90

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】						
指標	福岡市民病院					
	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値				
医療安全等の研修 開催数（回）	25	25				
薬剤管理指導件数 （件）	7,207	7,032				
栄養食事指導・相談 件数（件）	845	1,074				
がん患者指導件数 （件）	68	102				
【自己評価の判断理由】						
○ 薬剤管理指導件数は目標値に届かなかったが、クリニカルパス専任看護師の配置を行い患者中心の医療の実践を図るなど年度計画を着実に実施したことから、自己評価は「3」とする。						

中期目標（項目）	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実
中期計画	年度計画
① 理事会を中心に、適正かつ効率的な事業運営を図るため、外部理事等の助言に基づく民間的経営手法も取り入れながら自律的な法人経営を行う。 ② 病院長のリーダーシップの下、医療情勢の変化や患者ニーズ等に迅速かつ的確に対応できる機動性の高い病院経営を行うとともに、市立病院機構全体として、長期的な視点を踏まえ、一体的な運営管理を行う。	① 理事会を中心に、適正かつ効率的な事業運営を図るため、外部理事等の助言に基づく民間的経営手法も取り入れながら自律的な法人経営を行う。 ② 病院長のリーダーシップの下、医療情勢の変化や患者ニーズ等に迅速かつ的確に対応できる機動性の高い病院経営を行うとともに、市立病院機構全体として、長期的な視点を踏まえ、一体的な運営管理を行う。 企画情報推進室を中心として、情報システムの管理やセキュリティの強化、I T（情報技術）リテラシー向上のための教育、D X（Digital Transformation）の推進等について、機構全体で一体的なマネジメントを行う。 福岡市立こども病院においては、S a T（戦略的分析チーム）によるD X（Digital Transformation）に係る定期的なプレゼンテーションを通じて、I C T（情報通信技術）の活用による業務効率化を推進する。

中期目標(内容)	地方独立行政法人制度の特長を活かし、各病院が自らの特性や実情を踏まえ、より機動的に業務改善ができるよう、各病院において病院長がリーダーシップを発揮し、自律性を発揮できる運営管理体制の充実を図ること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
① 法人運営を的確に行うため、理事会を計10回開催し、理事会の決定方針に沿って自律的な運営を行った。なお、必要に応じてWeb会議による参加の対応など運営に支障がないよう対応した。 ② 両病院ともに、病院長のリーダーシップの下、医療情勢の変化や患者のニーズに対応ができるよう、執行部会議（福岡市立こども病院）や経営五役会議（福岡市民病院）等を定期的に開催し、迅速な協議や意思決定、情報の共有化を図るとともに、病院の実態に則した機動性の高い病院経営に取り組んだ。 また、運営本部と両病院合同による経営会議を毎月開催し、経営状況の把握や年度計画の進捗状況等を管理し、法人の全体的な視点から、経済性・効率性の追求を徹底するなど、適切な法人運営に取り組んだ。 さらに、令和6年12月に法人内に設置した法人経営改革会議において、経営アドバイザーを活用した各病院の収支の分析を行い、収支改善に向けた課題の洗い出しを始めた。 理事長直下の組織「企画情報推進室」において、情報システムの管理や各病院の病院情報システムのサイバーセキュリティに関するBCPの策定などのセキュリティの強化、DX(Digital Transformation)の推進等について、機構全体で一体的にマネジメントするとともに、全職員を対象とした情報セキュリティに関するeラーニング研修の実施などITリテラシーの向上を図った。 福岡市立こども病院では、S a T(戦略的分析チーム)において、スマートフォンの導入による業務効率化の検討を開始した。 福岡市民病院では、要約機能があるAIボイスレコーダーを導入した。従前より文字起こしの精度も向上し、看護部の議事録等の作成時間を短縮することが出来た。	1	3	3	○ 運営本部との連携による法人の一体的運営が図られており、また、経営アドバイザーを活用した法人経営改革会議を設置し収支改善に向けた取組を進めるなど、病院長のリーダーシップの下で自律的な運営が図られていることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ W e bを活用しながら理事会や経営会議等を適宜開催し、迅速かつ的確に対応できる機動性の高い病院経営を行うとともに経営アドバイザーを活用した法人経営改革会議の設置など、年度計画を確実に実施しているため、自己評価は「3」とする。				

中期目標（項目）	第２ 業務運営の改善及び効率化に関する事項 ２ 事務部門の機能強化
----------	--------------------------------------

中期計画	年度計画
① 経営状況や医療を取り巻く情報を整理・分析する能力など、事務部門に求められる専門性を更に高めていくため、研修の充実を図るとともに、スキルアップを支援するための制度の導入を検討する。 ② 市立病院の運営に必要なノウハウ等が蓄積・継続されるよう、情報共有の徹底やＯＪＴ（On the Job Training）の充実を図るとともに、人材育成プランを基に、職員のキャリアプランを踏まえた人事異動を通して、事務部門の更なる機能強化に努める。	① 市立病院の運営に必要なノウハウ等が蓄積・継続されるよう、事務のマニュアル化や業務の可視化等に努めるとともに、ＩＣＴ（情報通信技術）の更なる活用を図り、情報共有や業務の効率化を推進する。 ② 事務部門に求められる専門性を更に高めていくため、研修の充実を図るとともに、テーマごとの職場内研修等の実施により、効果的なＯＪＴ（On the Job Training）に繋げる。また、職員一人ひとりのＩＴ（情報技術）リテラシーの向上を図る。 職員のキャリアプランを踏まえた適材適所の人事配置に努める。

中期目標(内容)	各病院の経営支援を的確に行うことができる人材や、医療を巡る環境変化に柔軟に対応できる人材を育成するため、その専門的知識やスキルを習得するための研修を計画的に実施するとともに、市立病院としてのノウハウを確実に蓄積し、事務部門の更なる機能強化に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
① 市立病院の運営に必要なノウハウ等が蓄積・継続されるよう、運営本部及び両病院の経理担当者会議等を行った。 ② 主任級職員については、主任として求められる役割の理解とコミュニケーション能力及び判断力等の向上を目的として、昇任者及び昇任後5年目以上の職員を対象にした外部講師による研修を実施した（受講人数26人）。 また、係長級職員についても、監督者に求められる役割の理解と人材育成マネジメント能力等の向上を目的として、昇任者及び昇任後5年目以上の職員を対象にした外部講師による研修を実施した（受講人数12人）。 令和6年度は、課長級及び部長級職員に対し、管理者としてのマネジメント力の強化を目指すとともに、業務目標達成のために必要な手法や部下育成について学び組織力を強化するため、外部講師による研修を実施した（受講人数16人）。 さらに、全職員を対象に情報セキュリティに関する知識のみならず、インターネットや各種デバイスの利用方法等をIT基礎知識の確認としてテストを実施し、ITリテラシーの向上を図った。 事務部門全体の機能強化及び職員のキャリアプランを踏まえ、運営本部及び両病院間における人事異動を実施した。 福岡市立こども病院においては、中堅職員を全国地方独立行政法人病院協議会「事務職員向けセミナー」及び「事務責任者会議」に参加させるなど、事務職員の能力向上に努めた。 福岡市民病院においても、中堅職員を対象とした講座に複数名参加するとともに、「厚生局の適時調査に対応するための勉強会」や「診療報酬改定に関するセミナー」、「福岡県院内がん登録研修会」への参加など積極的に行い、事務職員の能力向上を図った。	1	3	3	○ 担当者和議等で専門的知識の共有や蓄積を図っており、また、人事異動の実施や、内外の研修等の活用による職員の能力向上に取り組むことで、事務部門の機能強化に努めるなど、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ 経理担当者会議等を開催するとともに、主任級及び係長級研修に加え、課長級及び部長級職員に対し、外部講師による研修を実施するとともに、全職員を対象に情報セキュリティに関する知識のみならず、インターネットや各種デバイスの利用方法等をＩＴ基礎知識の確認としてテストを実施するなど人材育成の強化に取り組んだため、自己評価は「３」とする。				

中期目標（項目）	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項 3 働きがいのある職場環境づくり
中期計画	年度計画
① 職員ニーズ等を踏まえ、福利厚生の更なる充実に取り組むとともに、育児・介護等の支援制度の利用促進や組織全体の意識改革を図り、柔軟で働きやすい職場環境の整備に努める。 ② 国の働き方改革の考え方を踏まえ、人員配置や業務の見直し等、職員の業務負担の軽減に努めるとともに、時間外勤務の適正化や年次有給休暇を取得しやすい職場環境を整備し、ワーク・ライフ・バランスの確保及び職員の健康保持に取り組む。 ③ 職員のモチベーションの維持・向上を図るため、人事評価制度の改善に引き続き取り組むとともに、社会情勢の変化等に適合しつつ、職員の意欲を引き出すよう、人事・給与制度について、適宜、見直しを行う。	① 職員が安心して働き続けることができるよう、福利厚生の更なる充実に取り組むとともに、育児・介護等の支援制度の周知徹底はもとより、研修や会議等を通じて、所属長を始め職員の意識改革を図る。 ② 令和6年（2024年）4月に適用される「医師に対する時間外労働上限規制」を踏まえ、医師を始めとする各職種のタスクシェアリング及びタスクシフティング並びにICT（情報通信技術）の活用による業務の効率化を推進し、職員の業務負担の軽減に努めるとともに、時間外勤務の適正化や年次有給休暇が取得しやすい職場環境を整備し、職員のウェルビーイング※の向上に取り組む。 ※身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念で、人々の満足度や充実、幸せなどを表すもの 「心の健康づくり計画」に基づき、メンタルヘルス対策に積極的に取り組み、心身ともに健康で働きやすい環境づくりを推進し、職員のメンタルサポートに努めるとともに、「心の健康づくり計画」の見直しを検討する。 ハラスメント防止に向けた意識醸成を図るため、全職員を対象とした研修会を開催するとともに、職員アンケートの実施や外部の専門家による相談窓口の周知徹底を図り、引き続き職員が安心して相談できる環境づくりに取り組む。 ③ 職員のモチベーション向上を図る観点から、医師や管理職を対象とした人事評価制度を引き続き実施するとともに、社会情勢の変化等を踏まえた人事・給与制度の改善に取り組む。

中期目標(内容)	国の働き方改革の考え方を踏まえたワーク・ライフ・バランスの実現や職員の福利厚生の実現に向けた取組を行い、職員が働きやすい職場環境の整備に努めること。 また、職員の業績や能力を公正かつ客観的に評価できるように人事評価制度の改善を行い、職員のモチベーションの維持・向上を図ること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
① 令和7年4月施行に向けた、子の看護休暇等制度の取得事由の拡充検討、介護離職防止のための相談体制の整備及びその周知・意向確認を行うためのリーフレットやハンドブック作成準備を行うなど、安心して働き続けることができる制度の充実に取り組んだ。 福岡市立こども病院においては、院内のグループウェア等を活用し、育児・介護等の支援制度や休暇取得推奨の周知に努めた。 また、引き続き職員への福利厚生や育児・介護等の支援制度の周知を目的とした総務課通信を1回発行した。 ② 福岡市立こども病院においては、看護師による末梢静脈注射や動脈ライン採血の実施など、医師のタスクシフティングに取り組むとともに、臨床工学技士による夜間の呼吸器回路組立、ホスピタルプレイスペシャリストの配置など、看護師のタスクシフティングに積極的に取り組んだ。 また、超過勤務時間数の多い医師に対して、外部医師による面談のシステムを取り入れるなど、医師のメンタルヘルス対策に取り組んだ。 さらに、ハラスメントに関するアンケートを実施したほか、厚生労働省の啓発ポスターを掲示するなど、ハラスメント防止に向けた意識醸成を図るとともに、外部の専門家による相談窓口の周知を徹底し、職員が安心して相談できる環境づくりに取り組んだ。 福岡市民病院においては、医師の業務負担軽減を目的として6月に、病院日当直の医師と研修医を対象に二交代制を導入するとともに、「働き方改革コアメンバー会議」にて時間外労働のモニタリング及び分析を毎月実施し、適正な労働時間管理に継続して取り組んだ。また、医師のタスクシフティングについては、特定行為の研修を修了した看護師による実務について、従来から実施している気管カニューレの交換に加え、動脈ラインの確保や採血を開始するなど、実践の拡大に取り組んだほか、これまで外科医師が行っていた腹腔	1	3	3	○ 指標は目標値を上回り 100%の実施となっており、また、子の看護休暇等制度の取得事由の拡充検討、介護離職防止のための相談体制の整備、各職種におけるタスクシフトの推進等、担い手不足が言われる昨今の厳しい環境の中、職員が働きやすい職場環境の整備に着実に取り組んでいることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】 (単位：%)				【目標値】 (単位：%)		
指標	市立病院機構全体			指標	市立病院機構全体	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和4年度 実績値	令和6年度 目標値
新採・転入職員とのメンタルヘルス面談実施率	—	—	90.0	新採・転入職員とのメンタルヘルス面談実施率	97.3	90.0

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
鏡下での手術時のカメラ操作を臨床工学技士が実施する、放射線技師がＣＴ造影剤注入時の見守りを必要時には放射線科医師に確認を取りながら随時実施するなどの取組みも開始した。さらに、医療用画像管理システムの更新によりＡＩを活用した画像診断が可能になり、医師の負担軽減を図った。 看護師については、各病棟に専属で配置したクラークへ、窓口や電話対応、入退院名簿作成などの事務作業をタスクシフティングしたほか、看護計画マスタの導入、患者向けの入院案内説明動画の作成等により、業務負担軽減に取り組んでいる。 機構全体として、「心の健康づくり計画」に基づき、毎月のメンタルヘルスの基礎知識の発行や、eラーニング、ストレスチェックの実施など職員のメンタルサポートに努めるとともに、策定して５年が経過する「心の健康づくり計画」について見直しを行い、「第２次心の健康づくり計画」を策定した。 令和５年度から、ハラスメント防止に向けた意識醸成を図るため、全職員を対象とした研修を実施しているが、６年度からは、課長級以上を対象に、マネジメントの強化等を目的とした外部講師による研修を新たに実施している。また、職員アンケート結果を踏まえ、福岡市立こども病院に設置していた外部の専門家による相談窓口を法人全体で活用できるように拡充した。 ③ 医師及び管理職を対象とした人事評価制度については、引き続き評価結果を業績手当へ反映するなど、職員のモチベーションの維持・向上を図った。				
【実績値】 (単位：％)				
指標	市立病院機構全体			
	令和５年度 実績値	令和６年度 実績値		
新採・転入職員とのメンタルヘルス面 談実施率	98.7	100.0		

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ 子の看護休暇等制度の取得事由の拡充検討、介護離職防止のための相談体制の整備や、両病院における各職種のタスクシフト等の取組など、職員が安心して働き続けることができるよう取り組んできたことから、年度計画を確実に実施しているため、自己評価は「3」とする。				

中期目標（項目）	第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項
	4 法令遵守と公平性・透明性の確保

中期計画	年度計画																										
① 関係法令や内部規定の遵守などコンプライアンスの徹底を目的とした管理監督者研修などを実施することにより、チェック機能を強化し、不適切な事務処理や不祥事を未然に防止するとともに、市立病院として公平性・透明性を確保した適正な病院運営を行う。 ② 個人情報の保護及び情報公開に関しては、福岡市の関係条例及び当法人の情報セキュリティポリシーに基づき、適切に対応する。	① 関係法令や内部規定の遵守等コンプライアンスを徹底するため、管理監督者を対象としたコンプライアンス研修を実施することにより、チェック機能を強化し、不適切な事務処理や不祥事を未然に防止する。 監事（弁護士、公認会計士）及び会計監査人による監査等の実施により、内部統制を適正に維持し、市立病院として適正な病院運営を行う。 ② 個人情報の保護及び情報公開に関しては、個人情報保護法を始め、福岡市の関係条例及び当法人の情報セキュリティポリシー等に基づき、適切に対応するとともに、研修等を通じて職員の教育を徹底するほか、カルテ等の診療情報に関しては、診療録開示委員会を開催して開示の可否を決定する。																										
【目標値】（単位：％） <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="3">市立病院機構全体</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 見込値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>コンプライアンス研修受講率</td><td>—</td><td>—</td><td>100.0</td></tr><tr><td>情報セキュリティ研修受講率</td><td>—</td><td>—</td><td>100.0</td></tr></table>	指標	市立病院機構全体			令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	コンプライアンス研修受講率	—	—	100.0	情報セキュリティ研修受講率	—	—	100.0	【目標値】（単位：％） <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">市立病院機構全体</th></tr><tr><th>令和4年度 実績値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>コンプライアンス研修受講率</td><td>100.0</td><td>100.0</td></tr><tr><td>情報セキュリティ研修受講率</td><td>99.9</td><td>100.0</td></tr></table>	指標	市立病院機構全体		令和4年度 実績値	令和6年度 目標値	コンプライアンス研修受講率	100.0	100.0	情報セキュリティ研修受講率	99.9	100.0
指標		市立病院機構全体																									
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																								
コンプライアンス研修受講率	—	—	100.0																								
情報セキュリティ研修受講率	—	—	100.0																								
指標	市立病院機構全体																										
	令和4年度 実績値	令和6年度 目標値																									
コンプライアンス研修受講率	100.0	100.0																									
情報セキュリティ研修受講率	99.9	100.0																									

中期目標(内容)	医療法を始めとする関係法令を遵守することはもとより、行動規範と倫理に従い、市立病院の運営を担う地方独立行政法人として、公平性・透明性を確保した病院運営を行うこと。 また、個人情報の保護及び情報公開に関しては、福岡市個人情報保護条例（平成17年福岡市条例第103号）及び福岡市情報公開条例（平成14年福岡市条例第3号）に基づき、適切に対応すること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価												
	ウ エ ィ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど											
① 管理監督者については、コンプライアンス研修やハラスメント研修を実施しており、様々な機会を通じて職員の服務規律の指導を徹底し、法人職員として有すべき行動規範と倫理観の確立に努めた。 しかしながら、令和6年度にパワー・ハラスメントによる懲戒処分事案が2件発生し、患者様を始め、市民の皆様の信頼を損なうこととなったことは大変遺憾である。 法人全体の業務の適正化及び効率化の観点から、監事（弁護士、公認会計士）による監査を受け、法令等に従い適正に実施されていると報告を受けた。 ② 個人情報保護及び情報公開に関しては、個人情報保護法に関する全職員向けの研修及び両病院、運営本部に対して監査を実施した。全職員に対する情報セキュリティ基礎知識の確認テストを用いた情報セキュリティ研修を開催して職員の教育を徹底するなど、関係法令や福岡市の条例及び当法人の情報セキュリティポリシー等に基づき、適切に対応した。 また、カルテ等の開示請求に対しては、診療録（カルテ）開示委員会で開示の可否を適切に決定した（福岡市立こども病院39件、福岡市民病院51件）。 【実績値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">市立病院機構全体</th></tr><tr><th>令和5年度 実績値</th><th>令和6年度 実績値</th></tr><tr><td>コンプライアンス 研修受講率</td><td>98.5</td><td>100.0</td></tr><tr><td>情報セキュリティ 研修受講率</td><td>96.2</td><td>99.6</td></tr></table>	指標	市立病院機構全体		令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	コンプライアンス 研修受講率	98.5	100.0	情報セキュリティ 研修受講率	96.2	99.6	1	2	2	○ 指標は目標値をほぼ達成しており、その他にも各種の職員研修を実施しており、また、個人情報の管理を始め、法令遵守及び公平性・透明性の確保に努めている。 ○ このような中で、2件の懲戒処分が行われることとなり、法令遵守の面において年度計画を十分に実施できていないと判断されるため、「評価2」とする。 ○ なお、再発防止策の徹底に加え、組織への対外的な信頼の回復に努められたい。
指標		市立病院機構全体													
	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値													
コンプライアンス 研修受講率	98.5	100.0													
情報セキュリティ 研修受講率	96.2	99.6													

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ コンプライアンスやハラスメント、情報セキュリティ、個人情報保護についての研修を実施するとともに、個人情報の保護や情報公開についても適切に対応したが、パワー・ハラスメントによる懲戒処分事案が2件発生し、市民の皆様の信頼を損なうこととなったため、自己評価は「2」とする。今後は、ハラスメント防止の徹底に努め、再発防止に取り組む。				

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項
	1 持続可能な経営基盤の確立 (1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化

中期計画	年度計画																										
(1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化 市立病院として求められる医療を安定的かつ継続的に提供するため、医療環境の変化に対応しながら、より一層の経営の効率化や健全化を進め、持続可能な経営基盤の確立を図る。 また、運営費負担金の趣旨を踏まえ、市立病院としての役割に応じた政策的医療を提供するとともに、自律的な運営に努め、経営改善に取り組む。	(1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化 ア 福岡市立こども病院 毎週開催の執行部会議、毎月開催の運営会議において、医療環境の変化や病院の経営状況を踏まえ、取り組むべき課題を明確にした上で、収益の確保及び費用削減に取り組むとともに、月次決算の実施等経営に関する情報を迅速に把握し、経営分析や他病院との比較・分析を行うなど、効率的な病院経営を行う。																										
【目標値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="3">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 見込値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>108.2</td><td>103.0</td><td>98.2 (101.2※)</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>93.4</td><td>87.2</td><td>84.5 (87.0※)</td></tr></table>	指標	福岡市立こども病院			令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	経常収支比率	108.2	103.0	98.2 (101.2※)	医業収支比率	93.4	87.2	84.5 (87.0※)	【目標値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和4年度 実績値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>106.8</td><td>94.8</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>88.6</td><td>80.2</td></tr></table>	指標	福岡市立こども病院		令和4年度 実績値	令和6年度 目標値	経常収支比率	106.8	94.8	医業収支比率	88.6	80.2
指標		福岡市立こども病院																									
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																								
経常収支比率	108.2	103.0	98.2 (101.2※)																								
医業収支比率	93.4	87.2	84.5 (87.0※)																								
指標	福岡市立こども病院																										
	令和4年度 実績値	令和6年度 目標値																									
経常収支比率	106.8	94.8																									
医業収支比率	88.6	80.2																									
※ P F I (Private Finance Initiative) 契約に基づく節目の大規模修繕費用を除いて算出した場合																											

中期目標(内容)	市立病院として求められる医療を安定的かつ継続的に提供していくため、医療環境の変化に対応しながら、より一層の経営の効率化や健全化を進めるなど、経営改善に取り組み、持続可能な経営基盤を確立すること。 また、地方独立行政法人法に基づく運営費負担金の趣旨を踏まえ、公立病院としての役割を果たすとともに、自律的な運営に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価												
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど											
ア 福岡市立こども病院 ○ 執行部会議や運営会議を定期的に開催し、令和6年度に行われた診療報酬の改定によるP I C U等の入院管理料の取り下げ等の厳しい状況に対して、効率・効果的な病院経営について検討を重ね、決定事項等については迅速に所属長へ周知し、対策に取り組んだ。 【実績値】 (単位：%) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市立こども病院</th></tr><tr><th>令和5年度 実績値</th><th>令和6年度 実績値</th></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>100.3</td><td>94.8</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>86.1</td><td>79.7</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ 医業収支比率が目標値を下回っており、年度計画を十分に実施できていないと判断し、自己評価は「2」とした。 収支悪化の背景として、高額医療機器の更新や心臓血管外科医師数減の影響による手術件数の減、施設基準の要件変更により、基準を満たす医師の確保が困難であることによるP I C U及びM F I C Uの入院管理料の取り下げによる入院単価の減等による収益の減と高額医薬品の使用増や有期職員の賞与支給額増による費用の増等が挙げられる。 医師の確保が困難となっているため、医師確保の手立てを模索していく必要がある。	指標	福岡市立こども病院		令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	経常収支比率	100.3	94.8	医業収支比率	86.1	79.7	2	2	3	○ 診療報酬改定により不可避免的に生じた収益減の影響等によって医業収支比率は目標値を下回ったものの、経常収支比率は目標を達成したことから、年度計画を順調に実施していると判断し、「評価3」とする。 ○ なお、両指標において中期計画の目標値を下回っているため、更なる改善に向けた取組を進められたい。
指標		福岡市立こども病院													
	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値													
経常収支比率	100.3	94.8													
医業収支比率	86.1	79.7													

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項
	1 持続可能な経営基盤の確立 (1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化

中期計画	年度計画																										
(1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化 市立病院として求められる医療を安定的かつ継続的に提供するため、医療環境の変化に対応しながら、より一層の経営の効率化や健全化を進め、持続可能な経営基盤の確立を図る。 また、運営費負担金の趣旨を踏まえ、市立病院としての役割に応じた政策的医療を提供するとともに、自律的な運営に努め、経営改善に取り組む。	(1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化 イ 福岡市民病院 市立病院として求められる高度専門、救急医療を提供し、令和6年度診療報酬改定後も重症度、医療・看護必要度を維持しながら、ポストコロナにおける経営基盤の安定化に向けて、紹介及び救急患者受入れによる新入院患者数の確保や、収益改善に努める。																										
【目標値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="3">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和元年度 実績値</th><th>令和2年度 見込値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>95.8</td><td>106.2</td><td>100.1</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>87.2</td><td>82.2</td><td>90.4</td></tr></table>	指標	福岡市民病院			令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値	経常収支比率	95.8	106.2	100.1	医業収支比率	87.2	82.2	90.4	【目標値】 (単位：％) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和4年度 実績値</th><th>令和6年度 目標値</th></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>114.7</td><td>89.3</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>77.6</td><td>80.3</td></tr></table>	指標	福岡市民病院		令和4年度 実績値	令和6年度 目標値	経常収支比率	114.7	89.3	医業収支比率	77.6	80.3
指標		福岡市民病院																									
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値																								
経常収支比率	95.8	106.2	100.1																								
医業収支比率	87.2	82.2	90.4																								
指標	福岡市民病院																										
	令和4年度 実績値	令和6年度 目標値																									
経常収支比率	114.7	89.3																									
医業収支比率	77.6	80.3																									

中期目標(内容)	市立病院として求められる医療を安定的かつ継続的に提供していくため、医療環境の変化に対応しながら、より一層の経営の効率化や健全化を進めるなど、経営改善に取り組み、持続可能な経営基盤を確立すること。 また、地方独立行政法人法に基づく運営費負担金の趣旨を踏まえ、公立病院としての役割を果たすとともに、自律的な運営に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価												
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど											
イ 福岡市民病院 ○ 令和6年度診療報酬改定でより厳しくなった入院料に係る施設基準の要件を満たしながら、急性期病院としての機能を維持するために、高度な手術が必要な新規入院患者を積極的に受け入れ、救急搬送件数の増加に取り組んだ。急性期を脱した患者の転院・退院調整等については、インフルエンザ等の感染症の影響を受け難い時期もあったが、積極的に行い、病床の稼働率を維持した。 紹介・救急患者の受入を積極的に行い、病床利用率は86.5%と令和5年度の76.3%から引き続き改善傾向にある。それに伴い医業収益も増加している。 【実績値】 (単位：%) <table><tr><th rowspan="2">指標</th><th colspan="2">福岡市民病院</th></tr><tr><th>令和5年度 実績値</th><th>令和6年度 実績値</th></tr><tr><td>経常収支比率</td><td>95.7</td><td>94.1</td></tr><tr><td>医業収支比率</td><td>79.2</td><td>84.9</td></tr></table> 【自己評価の判断理由】 ○ 施設基準の要件を遵守しながら、紹介・救急患者の受入を積極的に行うことで病棟の稼働率改善を図るなど年度計画を着実に実施したことから、自己評価は「3」とする。	指標	福岡市民病院		令和5年度 実績値	令和6年度 実績値	経常収支比率	95.7	94.1	医業収支比率	79.2	84.9	2	3	3	○ 両指標において目標値を上回っており、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。 ○ なお、両指標において中期計画の目標値を下回っているため、更なる改善に向けた取組を進められたい。
指標		福岡市民病院													
	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値													
経常収支比率	95.7	94.1													
医業収支比率	79.2	84.9													

中期目標（項目）	第3 財務内容の改善に関する事項 1 持続可能な経営基盤の確立 （2）投資財源の確保
中期計画	年度計画
(2) 投資財源の確保 独立採算制を前提とした公営企業型地方独立 行政法人の会計制度の趣旨に鑑み、今後の投資計 画を踏まえた自己財源の確保に努める。	(2) 投資財源の確保 独立採算制を前提とした公営企業型地方独立 行政法人の会計制度の趣旨に鑑み、今後の投資計 画を踏まえた自己財源の確保に努める。

中期目標(内容)	施設整備や高額医療機器の更新など、今後の投資計画を踏まえながら、自己財源の確保に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
○ 収支改善に取り組んだものの、令和6年度は当期純損失が発生し新たな投資財源の確保ができなかったが、繰越積立金を活用することにより計画的な施設整備、高額医療機器の更新や必要な医療機器の購入等、効果的な投資を行った。 【自己評価の判断理由】 ○ 高額医療機器の更新などは効果的に行ったが、一方で経常収支改善に努めたものの当期純損失が発生し、新たな投資財源を確保できなかったことから自己評価は「2」とする。 今後も更なる収支改善に取り組み、投資財源の確保に努める。	1	2	2	○ 当期は機構全体で10億円余の純損失が生じ、これにより新たな投資財源を確保できなかったことから、年度計画を十分に実施できていないと判断されるため、「評価2」とする。 ○ 今後の投資計画を踏まえ、更なる収支改善に取り組み、自己財源の確保に努められたい。

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 2 収支改善 (1) 収益確保
中期計画	年度計画
(1) 収益確保 ① 診療体制の充実等による高度専門医療の提供に取り組むとともに、効率的な病床管理や高額医療機器の稼働率向上等に努め、収入の確保を図る。 ② 診療報酬改定等の医療環境の変化に的確に対応して適切な施設基準の取得及び維持に取り組む。 また、診療報酬請求に係る精度を高めるようチェック体制を更に強化するとともに、医療費の未収金発生防止や確実な回収に努めるなど、安定的な収益の確保に努める。	(1) 収益確保 ア 福岡市立こども病院 ① 循環器、周産期及び手術・集中治療センターを中心に、関連科との連携を密にし、高度専門医療、小児救急医療及び周産期医療の充実並びに病院設備の効率的な稼働を図る。 各種補助金を的確に活用することにより、収入の確保を図る。 ② 診療報酬改定に関する的確な情報収集に取り組むとともに、施設基準管理システム等を活用し、適切な施設基準の取得及び維持管理に努める。 保険診療検討ワーキングチームを中心に、査定内容の分析・対策立案等を行い、診療報酬請求業務の更なる精度向上に努める。 医事課職員やMSW(医療ソーシャルワーカー)による患者相談の充実等により、医療費の未収金発生防止に努めるとともに、回収困難事案については、法律事務所への業務委託によって確実な回収を継続して行う。

中期目標(内容)	診療体制の充実や効率的な病床利用及び高度医療機器の稼働率向上に努めるとともに、診療報酬改定等の医療環境の変化に的確に対応し、安定的かつ確実な収益の確保に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ① 毎週行われる執行部会議において、各センター長を含む病院幹部による患者数・手術件数等のモニタリング及び協議を行い、効率的な病棟運用の施策を講じるとともに、院内に設置した経営改善チームを中心に、収支改善に向けた課題を洗い出し、積極的に改善策の実行に努めた。 国や県の各種補助金の把握に努め、申請事務を適切に行うことにより、収益の確保を図った。 ② 施設基準管理ソフトを活用し、増収に繋がる施設基準の取得及び維持管理を図るとともに、院内の保険診療検討ワーキングチームを中心に、査定傾向の分析に基づいて、診療報酬請求プロセスの改善活動を病院全体で実施した結果、二次査定率を低い水準に抑えることができた（6年度0.18%、5年度0.18%）。 医療費の未収金については、患者相談を適宜実施し、経済状況に合わせて分納や後日支払い等の働きかけを行うことで未然に発生を防止するとともに、マニュアルに沿った対応（内容証明郵便による催告など）を行い、それでもなお回収困難な事例については弁護士事務所に委託して、確実な回収を図った。	2	3	3	○ 指標については、1人1日当たり入院単価が目標値を下回ったが、その他は目標値をほぼ達成している。特に、効率的な病棟の運用により多くの新規入院患者を受け入れており、また、外来収益も前年比で増加させるなど、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】＊再掲				【目標値】＊再掲		
指標	福岡市立こども病院			指標	福岡市立こども病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和4年度 実績値	令和6年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）＊	108,393	112,546	110,000	1人1日当たり入院 単価（円）＊	111,703	108,000
1人1日当たり 外来単価（円）	11,492	12,746	11,620	1人1日当たり外来 単価（円）	11,500	12,200
1日当たり入院 患者数（人）＊ （病床利用率 （％））＊＊	215.5 (90.2)	190.0 (79.5)	205.5 (86.0)	1日当たり入院 患者数（人）＊ （病床利用率（％）） ＊＊	200.7 (84.0)	205.5 (86.0)
新規入院患者数 （人）＊	7,428	6,180	6,883	新規入院患者数 （人）＊	7,486	7,400
平均在院日数 （日）	9.7	9.9	9.9	平均在院日数（日）	8.8	9.9
1日当たり 外来患者数（人）	389.5	356.1	371.4	1日当たり外来 患者数（人）	397.0	383.0
手術件数（件）＊	2,929	2,730	2,800	手術件数（件）＊	2,599	2,600
救急搬送件数 （件）＊	1,380	963	1,060	救急搬送件数（件） ＊	1,923	1,400
※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出				※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出		

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】＊再掲						
指標	福岡市立こども病院					
	令和５年度 実績値	令和６年度 実績値				
１人１日当たり 入院単価（円）＊	111,393	101,249				
１人１日当たり 外来単価（円）	11,279	13,585				
１日当たり入院 患者数（人）＊ （病床利用率（％）） ※＊	199.9 (83.7)	202.3 (84.6)				
新規入院患者数（人） ＊	7,760	8,000				
平均在院日数（日）	8.4	8.2				
１日当たり 外来患者数（人）	406.2	419.9				
手術件数（件）＊	2,732	2,720				
救急搬送件数（件） ＊	1,723	1,597				
※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出						
【自己評価の判断理由】 ○ １人１日当たり入院単価、１日当たり入院患者数及び病床利用率については目標値を下回ったが、それ以外の指標で目標値を上回るとともに、保険診療検討ワーキングチームを中心とした診療報酬請求プロセスの改善活動に取り組み、二次査定率を低く抑えるなど、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「３」とする。						

中期目標(項目)	第3 財務内容の改善に関する事項 2 収支改善 (1) 収益確保
----------	-------------------------------------

中期計画	年度計画
(1) 収益確保 ① 診療体制の充実等による高度専門医療の提供に取り組むとともに、効率的な病床管理や高額医療機器の稼働率向上等に努め、収入の確保を図る。 ② 診療報酬改定等の医療環境の変化に的確に対応して適切な施設基準の取得及び維持に取り組む。 また、診療報酬請求に係る精度を高めるようチェック体制を更に強化するとともに、医療費の未収金発生防止や確実な回収に努めるなど、安定的な収益の確保に努める。	(1) 収益確保 イ 福岡市民病院 ① 引き続き「病床管理プロジェクト会議」を毎朝開催し、重症度、医療・看護必要度を維持しつつ効率的なベッドコントロールを行い、入院治療が必要な新入院数の確保に積極的に取り組む。 ② 診療報酬改定に適切に対応するにあたり、令和5年度に導入した施設基準管理ソフトを活用し、増収につながるような適切な施設基準の取得及びその維持管理に努める。 また、診療報酬請求に係る精度を高めるため、レセプトチェックシステムのカスタマイズを随時行い、正確なレセプト請求を行うよう努めるとともに、各診療科とのカンファレンスを通じて、査定率の減少に取り組む。 医療費の未収金については、発生防止や確実な回収に努める。

中期目標(内容)	診療体制の充実や効率的な病床利用及び高度医療機器の稼働率向上に努めるとともに、診療報酬改定等の医療環境の変化に的確に対応し、安定的かつ確実な収益の確保に努めること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウェイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ① 副院長をリーダーとする「病床管理会議」を毎朝開催し、救急搬送患者の受入に係る課題の共有や、病床管理システムを活用した効率的なベットコントロールを促進するとともに、特に病床利用率の向上と重症度、医療・看護必要度の維持に向けた様々な取組について情報共有を行った結果、診療報酬改定で6月から変更された新しい基準でも一般病棟の重症度、医療・看護必要度を維持することができた。 ② 令和6年度診療報酬改定にあたり、施設基準管理ソフトを活用して、既存及び新設の届出への対応を滞りなく行った。入院料（一般病棟、ICU、CCU）に係る新たな重症度、看護必要度への対応については、綿密なシミュレーションを実施し維持管理に努めた。特に、CCUについては診療科長主導のもと協議を重ね、上位基準であるハイケアユニット入院医療管理料1の届出を可能とした。 また、毎月の査定内容に基づくレセプトチェックシステムのカスタマイズを適宜行うとともに、査定減対策として診療科毎のカンファレンスに医事課並びに医療事務委託会社の職員が参加し、情報提供・情報共有に努めるなど、レセプトの請求精度向上に取り組んだ結果、5年度査定率0.49%から0.39%へと改善した。6年度より、診療科カンファレンス等で周知した内容を研修動画としてまとめ、視聴後にテストを実施することで理解度を図る試みを開始した。 未収金については、未収金対応マニュアルに沿って、電話及び文書による段階を経た督促や分納相談等により確実に回収を行うとともに、回収困難案件については法律事務所への業務委託を継続し、確実な回収を図った。	2	3	4	○ 診療報酬改定等の医療環境の変化に的確に対応し、レセプトチェックも強化するなど、収入の確保に取り組んだ。 ○ 指標についてはほとんどの項目で目標値を達成しており、効率的な病棟の運用等により新規入院患者数及び手術件数は目標値・前年数値ともに上回って実施したこと、また、外来収益も前年比で増加させるなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画				年度計画		
【目標値】《再掲》				【目標値】＊再掲		
指標	福岡市民病院			指標	福岡市民病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和4年度 実績値	令和6年度 目標値
1人1日当たり 入院単価（円）＊	64,081	69,327	66,300	1人1日当たり入院 単価（円）＊	79,493	73,400
1人1日当たり 外来単価（円）	22,965	24,998	23,000	1人1日当たり外来 単価（円）	24,871	27,900
1日当たり入院 患者数（人）＊ （病床利用率 （％））＊＊	183.9 (90.2)	167.5 (82.1)	190.0 (93.1)	1日当たり入院 患者数（人）＊ （病床利用率（％）） ＊＊	144.8 (71.0)	174.0 (85.2)
新規入院患者数 （人）＊	4,525	4,053	4,769	新規入院患者数 （人）＊	4,044	4,770
平均在院日数 （日）	12.7	12.8	12.6	平均在院日数（日）	12.0	11.5
1日当たり 外来患者数（人）	219.7	194.6	220.0	1日当たり外来 患者数（人）	212.0	211.0
手術件数（件）＊	3,719	3,437	3,815	手術件数（件）＊	3,580	3,800
救急搬送件数 （件）＊	2,820	2,404	3,023	救急搬送件数（件） ＊	3,037	3,400
※ 病床利用率については、総務省による公立病院 決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数× 100）に基づき算出				※ 病床利用率については、総務省による公立病 院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床 数×100）に基づき算出		

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】＊再掲						
指標	福岡市民病院					
	令和５年度 実績値	令和６年度 実績値				
１人１日当たり 入院単価（円）＊	78,480	75,397				
１人１日当たり 外来単価（円）	26,756	28,544				
１日当たり入院患者 数（人）＊ （病床利用率（％）） ※＊	155.6 (76.3)	176.5 (86.5)				
新規入院患者数（人） ＊	4,533	5,013				
平均在院日数（日）	11.6	11.9				
１日当たり外来患者 数（人）	211.5	218.7				
手術件数（件）＊	3,873	3,967				
救急搬送件数（件） ＊	3,774	3,677				
※ 病床利用率については、総務省による公立病院決算の算出方法（年延入院患者数÷年延病床数×100）に基づき算出						
【自己評価の判断理由】 ○ 診療報酬改定についての的確に対応し、救急患者受入れ体制や病床利用率等に関する情報共有を徹底した結果、目標値を概ね達成するなど、年度計画を着実に実施したことから、自己評価は「３」とする。						

中期目標（項目）	第3 財務内容の改善に関する事項 2 収支改善 （2）費用削減
中期計画	年度計画
(2) 費用削減 ① 医療の質や医療安全の確保、患者へのサービス及び職員の労働環境等に十分配慮したうえで、職員の適正配置を行い、給与費比率の適正化に努める。 ② 診療材料や医薬品等の調達に関し、SPD（医療材料物流管理）事業者やコンサルタントと共同して、分析及びそれに基づく価格交渉の徹底、契約手法や委託業務内容の見直し及びジェネリック医薬品の使用拡大等を行い、費用の削減を図る。 ③ 両病院ともに、適切に施設・設備のアセットマネジメントを推進する。	(2) 費用削減 ア 福岡市立こども病院 ① ICT（情報通信技術）の活用による業務の効率化を推進し、人員配置及び給与費比率の適正化に努める。 ② SPD（医療材料物流管理）事業者やコンサルタントと共同して、他の医療機関とのベンチマーク分析を行い、その結果に基づく価格交渉を徹底するとともに、同種同効品への切替え等を行い、材料費の更なる削減を図る。 また、職員のコスト意識向上を図るために、各種データ（材料費、光熱費等）を活用し、病院全体で費用削減に取り組む。 ③ PFI（Private Finance Initiative）事業者から予防保全を前提に提案・策定された15年間（平成26年度から令和11年度まで）の修繕更新計画に基づき、適切に管理を行い、建物・設備の長寿命化及び維持・修繕費用の適正化を図るとともに、PFI事業期間終了以降の病院施設・設備管理手法に係る検討に着手する。

中期目標(内容)	地方独立行政法人の会計制度に基づいた効果的かつ効率的な事業運営に努めるとともに、効果的な費用の削減に努めること。 また、計画的な維持修理による施設の長寿命化と投資の平準化、施設運営・保守管理の効率化などのアセットマネジメントを推進すること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
ア 福岡市立こども病院 ① 労務管理システムの活用により、超過勤務時間や年次有給休暇等の入力及び集計業務の効率化を図った。 ② 診療材料については、積極的にSPD（医療材料物流管理）受託業者と連携し、全部署の協力のもと、市民病院と同種同効品の統一を行ったほか、同一の診療材料で納入価が異なっていたものについては、低価格の方に価格を統一するなど、両病院の診療材料委員会を中心に徹底した価格交渉を行った結果、診療材料費を約3,530万円削減することが可能となった（削減額は、SPD委託契約前年度（令和元年度）の購入単価を基準として算出）。 また、光熱費についても、省エネルギー推進委員会を中心に、節電に対する啓発活動を行い、病院全体で費用削減に取り組んだ。 ③ PFI（Private Finance Initiative）事業者から予防保全を前提に提案・策定された修繕更新計画を基に、PFIのノウハウを活用し、建物・設備の長寿命化と維持・修繕費用の縮減を図った。 また、PFI事業期間終了以降の施設・設備の管理手法のあり方について、先行して進めている他病院へ照会等を行うなど、PFI事業期間終了以降の病院施設・設備管理手法の検討に着手した。	2	3	3	○ 給与費、材料費及び薬品費対医業収益比率、ジェネリック医薬品導入率の指標が目標値を下回っているが、ICT（情報通信技術）を活用した業務の効率化、SPD（医療材料物流管理）事業者と連携し、市民病院との同種同効品の統一等による診療材料費の削減、施設・設備の長寿命化及び維持・修繕費用の削減等に着実に取り組んでいることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。 ○ なお、経費削減が図られていない項目については、収支改善に向け、原因分析をしっかりと行ったうえで、組織全体で計画的に取り組まれない。

中期計画				年度計画		
【目標値】 (単位：%)				【目標値】 (単位：%)		
指標	福岡市立こども病院			指標	福岡市立こども病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和4年度 実績値	令和6年度 目標値
給与費対医業 収益比率	56.2	63.1	61.2	給与費対医業収益比 率	60.3	64.4
材料費対医業 収益比率	17.5	17.7	20.2	材料費対医業収益比 率	19.7	19.6
うち薬品費対 医業収益比率	5.5	5.4	6.8	うち薬品費対医 業収益比率	6.4	6.7
うち診療材料費 対医業収益比率	11.6	11.9	13.1	うち診療材料費 対医業収益比率	13.0	12.6
委託費対医業 収益比率	9.3	11.1	12.0	委託費対医業収益比 率	10.3	12.1
ジェネリック医 薬品導入率 ※	89.9	85.0	85.0	ジェネリック医薬品 導入率 ※	87.3	85.0
※ ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。				※ ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。		

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)			自己評価		市長の評価	
			ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】 (単位：%)						
指標	福岡市立こども病院					
	令和5年度 実績値	令和6年度 実績値				
給与費対医業収益比率	62.1	66.0				
材料費対医業収益比率	20.5	19.9				
うち薬品費対医業収益比率	8.0	8.0				
うち診療材料費対医業収益比率	12.3	11.6				
委託費対医業収益比率	10.7	11.5				
ジェネリック医薬品導入率 ※	85.1	78.9				
※ ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。						
【自己評価の判断理由】						
○ 有期職員の業績手当の増額等により給与費対医業収益比率が目標を下回ったほか、高額医薬品の使用量の増により、薬品費対医業収益比率が目標値を下回ったが、ICT（情報通信技術）を活用した事務業務の効率化の推進や市民病院との同種同効品の統一などによる診療材料費の削減、省エネルギー推進委員会を中心とした光熱費縮減に向けた取組を行うなど、年度計画を着実に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。						

中期目標（項目）	第3 財務内容の改善に関する事項 2 収支改善 （2）費用削減
中期計画	年度計画
(2) 費用削減 ① 医療の質や医療安全の確保、患者へのサービス及び職員の労働環境等に十分配慮したうえで、職員の適正配置を行い、給与費比率の適正化に努める。 ② 診療材料や医薬品等の調達に関し、SPD（医療材料物流管理）事業者やコンサルタントと共同して、分析及びそれに基づく価格交渉の徹底、契約手法や委託業務内容の見直し及びジェネリック医薬品の使用拡大等を行い、費用の削減を図る。 ③ 両病院ともに、適切に施設・設備のアセットマネジメントを推進する。	(2) 費用削減 イ 福岡市民病院 ① ICT（情報通信技術）の活用等による業務の効率化を図るとともに、職員の適正配置を行い給与比率の適正化に努める。 ② 診療材料や医薬品等の調達に関し、SPD（医療材料物流管理）事業者やコンサルタントと共同して分析を行い、それに基づく価格交渉の徹底及びジェネリック医薬品の使用拡大に努める。また、高額な医療機器の保守に関して状況に応じて契約手法の見直し等を行い、費用の削減を図る。 医療機器等の購入に関し、診療状況を鑑みて必要度を見極めながら検討する。 ③ 中長期修繕計画に基づき、維持・修繕費用の削減を図る。

中期目標（内容）	地方独立行政法人の会計制度に基づいた効果的かつ効率的な事業運営に努めるとともに、効果的な費用の削減に努めること。 また、計画的な維持修理による施設の長寿命化と投資の平準化、施設運営・保守管理の効率化などのアセットマネジメントを推進すること。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
イ 福岡市民病院 ① 手術時の麻酔に関する説明動画を作成し活用することで、医師と看護師の患者説明に関する時間を削減した。4月から開始し、1カ月あたり約20時間の業務が削減できた。 労務管理システムの活用により、超過勤務時間や年次有給休暇等の入力及び集計業務の効率化を図った。 ② S P D（医療材料物流管理）事業者と連携し、コンサルタントやS P D（医療材料物流管理）事業者のベンチマーク分析をもとに、診療材料に係る価格交渉を実施した。また、こども病院と診療材料費削減プロジェクトを立ち上げ、共通品や同種同効品の価格統一を行った。昨年度同様、各メーカーより原材料高騰による定価値上げが行われる中、上記活動により、約500万円の価格削減となった。 医療機器等の購入に関しては、緊急性など必要度を確認し優先順位をつけ、順次購入した。 ③ 中長期修繕計画に基づき、大規模修繕ではなく経年劣化に伴う設備の維持・修繕を行うことで、費用削減を図った。 ● 省エネルギー推進委員会にて、院内の照明について検討し、基本的に全て蛍光灯からL E Dへ変更する計画を策定した（令和7年度より変更を実施）。また、節電に対する啓発活動を行い、病院全体で省エネルギー対策に取り組んだ。	2	3	3	○ 薬品費対医業収益比率の指標は目標値を下回っているが、I C T（情報通信技術）を活用した業務の効率化や、こども病院との診療材料費削減プロジェクト活動等を積極に行った結果、それ以外の指標では目標値を達成しており、費用削減に着実に取り組んでいることから、年度計画を順調に実施していると判断されるため、「評価3」とする。 ○ なお、経費削減が図られていない項目については、収支改善に向け、原因分析をしっかりと行っただけで、組織全体で計画的に取り組まれない。

中期計画				年度計画		
【目標値】 (単位：%)				【目標値】 (単位：%)		
指標	福岡市民病院			指標	福岡市民病院	
	令和元年度 実績値	令和2年度 見込値	令和6年度 目標値		令和4年度 実績値	令和6年度 目標値
給与費対医業収益比率	62.9	67.2	56.6	給与費対医業収益比率	66.7	61.9
材料費対医業収益比率	27.0	26.3	28.8	材料費対医業収益比率	31.0	31.7
うち薬品費対医業収益比率	8.4	8.0	8.8	うち薬品費対医業収益比率	9.9	10.8
うち診療材料費対医業収益比率	18.4	18.1	19.9	うち診療材料費対医業収益比率	20.9	20.6
委託費対医業収益比率	7.6	7.9	8.5	委託費対医業収益比率	8.6	8.7
ジェネリック医薬品導入率 ※	88.7	88.7	88.7	ジェネリック医薬品導入率 ※	86.7	88.0
※ ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。				※ ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。		

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)		自己評価		市長の評価	
		ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【実績値】 (単位：％)					
指標	福岡市民病院				
	令和5年度 実績値		令和6年度 実績値		
給与費対医業収益比率	63.8		58.3		
材料費対医業収益比率	33.0		31.6		
うち薬品費対医業収益比率	11.9		11.9		
うち診療材料費対医業収益比率	21.0		19.6		
委託費対医業収益比率	8.6		8.0		
ジェネリック医薬品導入率 ※	89.1		88.7		
※ ジェネリック医薬品導入率については、数量の割合で算出している。					
【自己評価の判断理由】					
○ 手術時の麻酔に関する説明動画等の活用による業務時間の効率化やこども病院との診療材料費削減プロジェクトによる診療材料費削減のための活動を積極的に行った結果、薬品費対医業収益比率以外の指標は目標値を達成することができ、年度計画を順調に実施していると判断し、自己評価は「3」とする。					

中期目標(項目)	第4 その他業務運営に関する重要事項 1 福岡市立こども病院における医療機能の充実
----------	---

中期計画	年度計画
中核的な小児総合医療施設としての役割を果たすため、医療環境の変化等を踏まえ、高度小児専門医療、小児救急医療及び周産期医療の更なる充実を図るとともに、治験や臨床データ解析等の臨床研究、国際的な視野に立った職員の人材育成等に積極的に取り組み、小児・周産期医療の発展に貢献する。 また、新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ、引き続き病床の適切な運用や更なる確保を目指した取組を進める。	○ 患者の包括的な成長・発達支援及び入院生活支援等を目的として、こども支援室を設置する。(再掲) ○ 臨床研究や治験(検証的臨床試験)に積極的に取り組み、小児・周産期医療の発展や新薬の開発に貢献する。 ○ 国際医療支援センターを中心に、職員の外国語能力・コミュニケーション能力の向上を目指して、研修活動等を行う。 ○ 高度医療を行う小児総合医療施設として患者の治療・救命に全力を尽くすとともに、患者・家族の選択肢の一つとして、臓器提供の申出がなされた際は円滑に対応できるよう、必要となる院内体制の維持に努める。 ○ 新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ、引き続き病床の適切な運用等に係る取組を進める。 ○ 個人や企業からの支援確保に向け積極的な情報発信や働きかけを行い、研究基金・療養環境整備基金・患児家族滞在施設整備基金の充実を図るとともに、当該基金の有効活用を図る。

中期目標(内容)	小児医療、周産期医療を取り巻く状況や医療環境の変化等を踏まえ、福岡市立こども病院に求められる役割を果たせるよう、中核的な小児総合医療施設としての医療機能の更なる充実を図ること。 また、新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ、引き続き病床の適切な運用や更なる確保を目指した取組を進めること。
----------	---

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエイト	評価	評価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
○ 患者の包括的な成長・発達支援及び入院生活支援等を目的として、4月にこども支援室を設置した。(再掲) ○ 厚生労働省DPC(診断群分類)公開データにおいて、川崎病(209例)について、成人を含む全国のDPC病院の中で症例数が9年連続で全国1位となるとともに、複雑な先天性心疾患に係る難易度の高い手術症例(53例)については全国2位(前年度まで8年連続全国1位)となるなど、順調に成果を挙げた。 臨床研究については、科学研究費助成事業(文部科学省)で研究代表として採択された課題等に積極的に取り組み、19件(うち研究代表3件)の研究に参加した。 科学研究費助成事業(文部科学省) 7件 厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省) 8件 日本医療研究開発機構(AMED) 2件 独立行政法人環境保全機構 2件 また、治験業務については、アクティブプロトコル26件(うち新規3件)を実施し、新たに14人の患者へ治験を開始した。 ○ 国際医療支援センターを中心に、職員の外国語能力・コミュニケーション能力の向上を目指して、医療英語・中国語・フランス語研修を開催(6年度延べ19回、5年度延べ29回)した。 ○ 臓器提供の申出がなされた際に円滑に対応できるよう、外部講師による講演会を1回開催するとともに、脳死判定及び臓器提供のシミュレーションを各1回実施した。 ○ 新病院基本構想で示された医療機能の基本的な考え方を踏まえ、引き続き病床の適切な運用等に係る取組を進めた。 ○ 福岡コンベンションセンターに働きかけを行い、4月に支援自販機(寄付型自動販売機)をマリンメッセと国際会議場に各1台ずつ設置した。 また、療養環境整備基金を活用し、クリスマス会のプレゼントや外来での採血後に患児へのご褒美として用意しているカプセル玩具の補充費用として充当した。	2	4	4	○ 川崎病や先天性心疾患に係る手術症例を始めとする高度小児専門医療に加え、小児救急医療、周産期医療等に着実に取り組んでいる。 ○ いずれも小児総合医療施設としての医療機能の充実を資する取組であり、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ 科学研究費助成事業（文部科学省）等の臨床研究や治験業務に積極的に取り組み、小児・周産期医療の発展や新薬の開発に貢献するとともに、成人を含むD P C病院の中で、川崎病の症例数9年連続全国1位や複雑な先天性心疾患に係る難易度の高い手術症例数が全国2位（前年度まで8年連続全国1位）となるなど、年度計画を上回って実施していると判断し、自己評価は「4」とする。				

中期目標(項目)	第4 その他業務運営に関する重要事項 2 福岡市民病院における経営改善の推進
中期計画	年度計画
① 将来的な市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえながら、福岡県保健医療計画及び地域医療構想に基づき、公立病院に求められる高度専門医療、救急医療を提供するとともに、福岡市の医療施策として必要な感染症医療等の診療機能の充実に取り組む。 その一方で、経営の効率化に積極的に取り組み、現在の医療資源を最大限有効活用して、収支の改善に努める。 ② 収支の状況を踏まえながら、築30年を超えた既存の施設・設備の計画的な維持管理に取り組む。	① 新型コロナウイルス感染症対策を始めとする新興感染症への備えを強化するとともに、公立病院に求められる高度専門医療、救急医療の充実に取り組む。 また、将来的な福岡市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえながら、現在の医療資源を最大限有効活用して経営の効率化に積極的に取り組む。 ② 中長期修繕計画に基づき、施設・設備の長寿命化や投資の平準化を図るとともに、将来的な福岡市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえ、当該計画を適宜見直し、施設・設備の適切な維持管理に取り組む。

中期目標(内容)	福岡市民病院については、地方独立行政法人化後、医療環境の変化等を踏まえ医療機能を強化するなど、順調にその経営改善が図られたところであるが、引き続き経営課題の解決に努めるなど、更なる経営改善を進めること。 また、将来的な市民病院のあり方に関する検討状況を踏まえながら、既存の施設・設備の計画的な維持管理に取り組むこと。
----------	--

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウエ イト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
① 福岡県と改正感染症法に基づく医療措置協定を令和6年7月に締結し、感染症発生時は病床の確保、発熱外来の設置、人材の派遣を行うこととした。令和6年度はインフルエンザ・コロナについて重症化リスクのある患者の積極的な受入れをした。 コロナの影響による病床確保がない年度となり、紹介患者及び救急患者の受入れを強化した結果、病床利用率は86.5%と令和5年度76.3%を大幅に上回った。これにより医業収益については約5億3,460万円の増収となった。 物価高騰の影響による経費の増により収支は厳しいものとなったが、医業収支比率・経常収支比率は目標を上回った。 今後は、あり方の検討状況を踏まえながらA Iを用いた画像診断システムの活用により医師の負担軽減を図るなど、高度でより安全な医療の提供を行いながら、医療D Xによる経営の効率化を推進していく。 ② 中長期修繕計画に基づき、大規模修繕は実施せず、経年劣化に伴う修繕を必要に応じて行うこととしており、令和6年度は、厨房の地下給水配管からの漏水が判明したため、埋設配管から地上配管に切り替える工事等を実施した。 令和5年度に発生した地下埋設配管からの重油流出については、地下水の定期的なモニタリング調査を実施し、汚染範囲が広がっていないことを確認した。また、汚染対策実施に向けた設備機器の選定試験などを行った。	2	3	4	○ 高度専門医療や高度救急医療の推進など、求められる役割を果たしながら、インフルエンザ・コロナ等感染症について、重症化リスクのある患者の積極的な受入れなど、着実に医療機能の強化を図るとともに、迎え搬送の実施、感染症対応に係る関係機関合同での訓練など新たな取組を積極的に導入した。 ○ 経営改善については、組織全体で病床管理や地域医療機関との連携強化に取り組み、診療材料に関し法人内で共通品を選定して費用削減を図るなど、組織一丸となって取組を進め、医業損益を前年比4億円以上改善させるなど、年度計画を上回って実施していると判断されるため、「評価4」とする。

中期計画	年度計画

業務の実績 (実施状況や評価の判断理由)	自己評価		市長の評価	
	ウ エ イ ト	評 価	評 価	評価の判断理由・ 評価のコメントなど
【自己評価の判断理由】 ○ インフルエンザ・コロナ等感染症について、重症化リスクのある患者の積極的な受入れと並行して、紹介患者・救急患者受入れの強化を図ったことで病床利用率は目標値を上回り医業収益も増加するなど、年度計画を着実に実施したことから、自己評価は「3」とする。				

第5 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

1 予算（令和6年度）の執行状況

（単位：百万円）

区 分		予算額	決算額	差 額 (決算－予算)
収入				
	営業収益	17,661	17,605	▲ 56
	医業収益	15,513	15,430	▲ 82
	運営費負担金収益	1,944	1,944	0
	補助金等収益	110	110	0
	寄附金収益	12	12	0
	受託収入	82	109	27
	営業外収益	109	125	16
	運営費負担金収益	4	4	－
	補助金等収益	1	1	0
	その他営業外収益	104	120	16
	資本収入	74	83	9
	運営費負担金	52	52	0
	補助金等	22	31	9
	その他の収入	－	9	9
	計	17,844	17,823	▲ 21
支出				
	営業費用	17,632	17,822	190
	医業費用	17,409	17,640	232
	給与費	9,686	10,032	346
	材料費	4,157	4,222	66
	経費	3,439	3,287	▲ 152
	研究研修費	127	98	▲ 29
	一般管理費	223	182	▲ 42
	給与費	143	126	▲ 17
	経費	81	56	▲ 25
	営業外費用	9	10	2
	資本支出	1,149	1,084	▲ 65
	建設改良費	1,090	1,025	▲ 65
	償還金	60	60	－
	その他の支出	4	4	0
	計	18,793	18,920	127

（注）計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

2 収支計画（令和6年度）の執行状況

（単位：百万円）

区 分	予算額	決算額	差 額 (決算－予算)
収益の部	17,897	17,835	▲ 62
営業収益	17,788	17,710	▲ 78
医業収益	15,513	15,414	▲ 99
運営費負担金収益	1,944	1,944	0
補助金等収益	110	110	0
寄附金収益	12	12	0
資産見返負債戻入	128	130	3
受託収入	82	100	17
営業外収益	109	116	7
運営費負担金収益	4	4	－
その他営業外収益	104	112	7
臨時利益	－	9	9
費用の部	19,322	18,867	▲ 455
営業費用	19,310	18,853	▲ 456
医業費用	18,994	17,911	▲ 1,082
給与費	9,829	9,675	▲ 154
材料費	4,157	3,822	▲ 335
経費	3,445	3,008	▲ 437
減価償却費	1,434	1,312	▲ 121
資産減耗費	2	1	▲ 1
研究研修費	127	93	▲ 34
一般管理費	229	182	▲ 47
その他営業費用	87	760	673
営業外費用	9	10	2
臨時損失	4	4	0
純損失	▲ 1,425	▲ 1,033	392
目的積立金取崩額	－	－	－
総損失	▲ 1,425	▲ 1,033	392

（注）計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

3 資金計画（令和6年度）の執行状況

（単位：百万円）

区 分	予算額	決算額	差 額 (決算－予算)
資金収入	25,185	26,146	960
業務活動による収入	17,769	17,613	▲ 156
診療業務による収入	15,513	15,333	▲ 180
運営費負担金による収入	1,948	1,948	0
その他の業務活動による収入	309	333	24
投資活動による収入	74	1,307	1,233
運営費負担金による収入	52	52	0
その他の投資活動による収入	22	1,255	1,233
財務活動による収入	－	－	－
前事業年度からの繰越金	7,342	7,225	▲ 117
資金支出	25,185	26,146	960
業務活動による支出	17,644	17,521	▲ 124
給与費支出	9,829	10,179	350
材料費支出	4,157	3,808	▲ 349
その他の業務活動による支出	3,659	3,534	▲ 125
投資活動による支出	978	782	▲ 197
有形固定資産取得による支出	978	537	▲ 441
無形固定資産取得による支出	－	22	22
その他の投資活動による支出	－	223	223
財務活動による支出	171	178	7
長期借入金の返済による支出	60	60	－
その他の財務活動による支出	111	118	7
翌事業年度への繰越金	6,392	7,665	1,274

（注）計数は原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは一致しないものがある。

第6 短期借入金の限度額

中期計画	年度計画	実 績
1 限度額 2,000百万円 2 想定される短期借入金の発生事由 ア 業績手当（賞与）の支給等による一時的な資金不足への対応 イ 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等、偶発的な出費への対応	1 限度額 2,000百万円 2 想定される短期借入金の発生事由 ア 業績手当（賞与）の支給等による一時的な資金不足への対応 イ 予定外の退職者の発生に伴う退職手当の支給等、偶発的な出費への対応	該当なし

第7 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

中期計画	年度計画	実 績
重要な財産を譲渡する計画 土地（福岡市中央区唐人町二丁目133番2 面積16,925.85平方メートル）を譲渡する。	なし	なし （令和5年度に譲渡済）

第8 剰余金の使途

中期計画	年度計画	実 績
決算において剰余金が生じた場合は、病院施設の整備、医療機器の購入、教育・研修体制の充実等に充てる。	決算において剰余金が生じた場合は、病院施設の整備、医療機器の購入、教育・研修体制の充実等に充てる。	令和6年度は、決算において剰余は生じなかった。

第9 地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則で定める業務運営に関する事項

中期計画	年度計画	実 績																		
1 施設及び設備に関する計画 (令和3年度から令和6年度まで) (単位：百万円) <table border="1"> <tr> <th>施設及び設備 の内容</th><th>予定額</th><th>財 源</th></tr> <tr> <td>病院施設、医療 機器等整備</td><td>4,762</td><td>積立金等</td></tr> </table>	施設及び設備 の内容	予定額	財 源	病院施設、医療 機器等整備	4,762	積立金等	1 施設及び設備に関する計画 (令和6年度) (単位：百万円) <table border="1"> <tr> <th>施設及び設備 の内容</th><th>予定額</th><th>財源</th></tr> <tr> <td>病院施設、医療 機器等整備</td><td>978</td><td>前中期目標期間 繰越積立金等</td></tr> </table>	施設及び設備 の内容	予定額	財源	病院施設、医療 機器等整備	978	前中期目標期間 繰越積立金等	1 施設及び設備に関する計画 (令和6年度) (単位：百万円) <table border="1"> <tr> <th>施設及び設備 の内容</th><th>決定額</th><th>財源</th></tr> <tr> <td>病院施設、医療 機器等整備</td><td>913</td><td>前中期目標期間 繰越積立金等</td></tr> </table>	施設及び設備 の内容	決定額	財源	病院施設、医療 機器等整備	913	前中期目標期間 繰越積立金等
施設及び設備 の内容	予定額	財 源																		
病院施設、医療 機器等整備	4,762	積立金等																		
施設及び設備 の内容	予定額	財源																		
病院施設、医療 機器等整備	978	前中期目標期間 繰越積立金等																		
施設及び設備 の内容	決定額	財源																		
病院施設、医療 機器等整備	913	前中期目標期間 繰越積立金等																		
2 人事に関する計画 人事評価制度の改善に引き続き取り組むとともに、教育・研修体制の充実等により、職員のモチベーションの維持・向上を図る。 また、適材適所を基本とした柔軟な人事配置を行うとともに、有期職員の活用やアウトソーシングの検討を積極的に行い、効果的・効率的な組織運営体制の構築を図る。	2 人事に関する計画 人事評価制度の改善に引き続き取り組むとともに、教育・研修体制の充実等により、職員のモチベーションの維持・向上を図る。 また、適材適所を基本とした柔軟な人事配置を行うとともに、有期職員の活用やアウトソーシングの検討を積極的に行い、効果的・効率的な組織運営体制の構築を図る。	2 人事に関する計画 医師及び管理職を対象とした人事評価制度については、引き続き評価結果を業績手当へ反映するなど、職員のモチベーションの維持・向上を図った。 また、管理監督者を対象とした外部講師による研修及びそれ以外の職員を対象としたWeb動画を活用したハラスメント研修、全職員対象の情報セキュリティ研修等を実施したほか、職員を外部研修へ派遣した。 各病院においてもWeb等を活用した院内研修の実施や外部研修の受講推進等研修体制の充実に努めた。 人材育成や組織の活性化を図るため、適材適所の人事配置に努めたほか、有期職員を福岡市立こども病院に165人、福岡市民病院に122人及び運営本部に2人配置するなど、効果的・効率的な組織運営を推進した。 ※有期職員の人数は令和6年5月1日現在																		

地方独立行政法人福岡市立病院機構 業務実績評価の方針

平成30年 6 月22日

福岡市長決定

地方独立行政法人法（以下「法」という。）第 28 条第 1 項各号の規定に基づき、福岡市長（以下「市長」という。）が実施する地方独立行政法人福岡市立病院機構（以下「法人」という。）の業務実績に関する評価（以下「評価」という。）については、以下の方針に基づき行うものとする。

1 基本方針

- (1) 評価は、法人が中期目標を達成するために、業務運営の改善及び効率化が進められること及び法人の質的向上に資することを目的として行うものとする。
- (2) 評価は、年度計画及び中期計画の実施状況を確認及び分析し、法人の業務運営等について総合的に判断して行うものとする。
- (3) 年度計画及び中期計画を実現するために、法人として特色ある取組や様々な工夫を行った場合は積極的に評価することとし、単に実績数値にとらわれないものとする。
- (4) 評価方法については、法人を取り巻く環境変化などを踏まえ、柔軟に対応するとともに、必要に応じて見直しを行うものとする。

2 評価方法

(1) 法人からの報告書の提出

法人は、各事業年度の終了後 3 月以内に、法第 28 条第 2 項及び地方独立行政法人福岡市立病院機構の業務運営等に関する規則第 8 条に定める報告書（以下「業務実績報告書」という。）を市長に提出するものとする。

(2) 評価の実施

市長は、提出された業務実績報告書をもとに、法人からの意見聴取等を踏まえて業務の実施状況を確認及び分析し、別途、実施要領で定める項目を評価単位とする「項目別評価」と、それを踏まえた「全体評価」により評価を行うものとする。

評価は、毎事業年度の終了後に実施する「年度評価」、中期目標の期間の最後の事業年度の直前の事業年度の終了後に実施する「中期目標期間見込評価」及び中期目標の期間の最後の事業年度の終了後に実施する「中期目標期間評価」とする。

① 年度評価

当該事業年度における業務の実績について「項目別評価（小項目評価及び大項目評価）」を行う。また、「項目別評価」の結果を踏まえ、当該事業年度における業務の実績全体について総合的に「全体評価」を行う。

② 中期目標期間見込評価

中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績について「項目別評価（大項目評価）」を行う。また、「項目別評価」の結果を踏まえ、当該中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績全体について総合的に「全体評価」を行う。

③ 中期目標期間評価

中期目標の期間における業務の実績について「項目別評価（大項目評価）」を行う。また、「項目別評価」の結果を踏まえ、当該中期目標の期間における業務の実績全体について総合的に「全体評価」を行う。

3 評価結果等の活用

- (1) 法人は、法第 28 条第 6 項に基づく業務運営の改善等の措置を受けた場合、自主的に必要な措置をとるとともに、法第 29 条に基づき、評価の結果を、中期計画及び年度計画並びに業務運営の改善に適切に反映させる。
- (2) 次期中期目標の策定、次期中期計画の認可及び法人の業務の継続又は組織の存続の必要性等に関する検討に関して、評価委員会が意見を述べる際には、中期目標の期間の各事業年度の評価結果を踏まえるものとする。

4 適用時期

この方針は、平成 30 年度に実施する業務実績評価から適用する。

地方独立行政法人福岡市立病院機構 年度業務実績評価実施要領

平成30年6月22日
福岡市長決定
令和4年4月22日改正
令和5年1月31日改正

地方独立行政法人法（以下「法」という。）第28条の規定に基づき、福岡市長（以下「市長」という。）が地方独立行政法人福岡市立病院機構（以下「法人」という。）の各事業年度における業務の実績に関する評価を実施するに当たっては、「地方独立行政法人福岡市立病院機構業務実績評価の方針（平成30年6月22日決定）」に基づき、以下の要領により実施する。

1 評価区分

(1) 全体評価

当該事業年度における業務の実績全体について評価を行う。

(2) 項目別評価

① 大項目評価

法第25条第2項第2号から第5号の各号に基づき、中期目標に掲げる第1から第4の事項について評価を行う。

② 小項目評価

大項目評価で定める評価区分に基づき、別表で定める事項について評価を行う。

2 評価結果の公表

評価の結果は、評価区分ごとに評価結果報告書（別紙1のとおり）にとりまとめ公表する。

3 評価方法

(1) 法人の自己評価

法人は、中期計画及び年度計画の実施状況等が明らかになるよう、小項目ごとの当該事業年度における業務の実績をできる限り定量的に記載するとともに、次の5段階で自己評価を行い、判断理由等を記載した業務実績等報告書（別紙2のとおり）を作成する。法人は、各小項目に市立病院としての役割や年度計画の重要度合いを考慮して、ウェイトを設定するものとする。

なお、業務の実績には、病院ごとの実績がわかるよう工夫し、特記事項として、特色ある取組、法人運営を円滑に進めるための工夫、今後の課題などを自由に記載するものとし、自己評価は、病院の自己点検に基づき、法人として行うものとする。

評価５・・・年度計画を大幅に上回って実施している。

評価４・・・年度計画を上回って実施している。

評価３・・・年度計画を順調に実施している。

評価２・・・年度計画を十分に実施できていない。

評価１・・・年度計画を大幅に下回っている。

(2) 項目別評価

① 小項目評価

市長は、業務実績報告書記載の法人の自己評価を踏まえ、小項目ごとの当該事業年度における業務の実績について、次の５段階による評価を行う。その際、単に目標値及び前年度数値と当該年度の実績値の比較だけでなく、中期計画を達成するために効果的な取組が行われているかどうかなど、総合的に判断するとともに評価の判断理由等を記載する。

その他、必要に応じて、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

評価５・・・年度計画を大幅に上回って実施している。

評価４・・・年度計画を上回って実施している。

評価３・・・年度計画を順調に実施している。

評価２・・・年度計画を十分に実施できていない。

評価１・・・年度計画を大幅に下回っている。

② 大項目評価

市長は、小項目評価の結果を踏まえ、大項目ごとの当該事業年度における業務の実績について、次の５段階による評価を行う。評価に当たっては、小項目評価の１～５をそれぞれ１点～５点とし、ウェイト換算後の合計を評価点、すべての小項目評価が３の場合の合計を標準点とし、標準点に対する評価点の割合（％）により評価を行うものとする。

また、特筆すべき小項目評価やその他考慮すべき事項がある場合、判断理由を記載する。

評価S：中期計画の実現に向けて、特筆すべき進捗状況にある
(市長が特に認める場合)

評価A：中期計画の実現に向けて計画以上に進んでいる
(評価点が標準点の120%以上)

評価B：中期計画の実現に向けておおむね計画どおり進んでいる
(評価点が標準点の100%以上120%未満)

評価C：中期計画の実現のためにはやや遅れている
(評価点が標準点の100%未満)

評価D：中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある
(市長が特に認める場合)

(3) 全体評価

市長は、項目別評価の結果を踏まえ、当該事業年度における業務の実績全体について、記述式による評価を行う。

全体評価においては、病院改革の取組（法人運営における業務運営の改善・効率化、財務内容の改善など）を積極的に評価するものとする。

その評価に当たり、項目別評価の結果及びその判断理由とともに、主な取組や特色ある取組及び特に優れている点など特筆すべき取組について記載するものとする。

また、評価に際し改善すべき事項がある場合は記載する。

(別表) 項目別評価

大項目	小項目	
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	1 医療サービス	(1) 良質な医療の実践
		(2) 地域医療への貢献と医療連携の推進
		(3) 災害・感染症等への適切な対応
	2 患者サービス	(1) 患者サービスの向上
		(2) 情報発信
	3 医療の質の向上	(1) 病院スタッフの計画的な確保と教育・研修
		(2) 信頼される医療の実践
第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項	1 自律性・機動性の高い運営管理体制の充実	
	2 事務部門の機能強化	
	3 働きがいのある職場環境づくり	
	4 法令遵守と公平性・透明性の確保	
第3 財務内容の改善に関する事項	1 持続可能な経営基盤の確立	(1) 経営基盤の安定化と運営費負担金の適正化
		(2) 投資財源の確保
	2 収支改善	(1) 収益確保
		(2) 費用削減
第4 その他業務運営に関する重要事項	1 福岡市立こども病院における医療機能の充実	
	2 福岡市民病院における経営改善の推進	

